

平成29年度

地方独立行政法人福岡市立病院機構に
係る業務実績に関する評価結果報告

福岡市

報告第53号

地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る業務実績に関する評価結果報告

地方独立行政法人法第28条第5項の規定により、地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る平成29年度の業務の実績に関する評価結果について報告する。

平成30年9月6日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

目 次

は じ め に	1
第 1 項 全体評価	2
第 2 項 項目別評価	4
(1) 大項目評価	
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	4
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	8
(2) 小項目評価	
福岡市立病院機構の概要	13
全体的な状況	15
項目別の状況	22
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	
1 医療サービス	22
2 患者サービス	40
3 医療の質の向上	48
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	58
2 事務部門の機能強化	60
3 働きがいのある職場環境づくり	62
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	64
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 経営基盤の強化	66
2 収支改善	72
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	84
2 福岡市民病院における経営改善の推進	86
第 5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	88
第 6 短期借入金の限度額	91
第 7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	91
第 8 剰余金の使途	91
第 9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営 に関する事項	92
〈参考資料〉	
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針	93
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領	95

は じ め に

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の平成29年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

地方独立行政法人制度については、平成29年6月に地方独立行政法人法が改正（平成30年4月施行）され、評価にあたっては、評価を実施する際の評価主体が評価委員会から設立団体の長へ変更されたが、市長が評価する際、評価委員会は市長に意見を述べることを条例で定めている。

今回の法改正を踏まえ、福岡市において、平成30年6月22日に「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」を新たに策定し、評価を行った。

また、評価委員会を2回開催し、市の評価案に対して評価委員会から意見を聴取し、その意見を反映させたうえで、評価結果としてとりまとめたものである。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委 員 長	寺 坂 禮 治	福岡市医師会 副会長
副委員長	福 田 治 久	九州大学大学院医学研究院 准教授
委 員	一 宮 仁	浜の町病院 院長
	花 岡 夏 子	福岡県看護協会 会長
	行 正 晴 實	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及び判断理由

〈評価結果〉

第3期中期目標期間の初年度である平成29年度の業務実績に関する評価については、小項目評価の結果を踏まえ、第1及び第4の大項目評価は「評価A」、第2及び第3は「評価B」となる。

この大項目評価の結果を踏まえ、両病院ともに、高度専門医療、救急医療等の更なる充実を図りながら、地域医療への貢献、経営の効率化等取組を実施していることなどから、平成29年度の業務実績は、「中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる」と評価する。

〈判断理由〉

地方独立行政法人制度の特長を生かし、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となった運営を行うとともに、外部理事を含む理事会を定期的に行い、運営管理体制の徹底が図られている。

福岡市立こども病院においては、これまで培ってきた小児医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、患者ニーズや医療環境の変化に即した新しい診療科の設置や診療体制の見直しを行っている。

福岡市民病院においては、4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病)への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図るとともに、高度救急医療の対応強化及び感染症医療の機能の充実にも取り組んでいる。

経営面では、人員の適正配置や救急医療の体制充実により、病床利用率や手術件数が増加、また費用削減にも取り組んだ結果、当期純利益が、福岡市立こども病院において、9億2,500万円余、福岡市民病院において1億4,700万円余となっており、経営基盤の強化・収支改善が順調に図られている。

全体評価にあたって考慮した内容

〈重点的な取組〉

《福岡市立こども病院》

腎・泌尿器センターを新設した。また、NICUにおける効率的・効果的な運用やHCUへの体制整備等により、それぞれの病床利用率が向上した。退院時アンケートの結果をもとに、屋外案内看板の改良や病室内シャワー室の環境整備等に取り組んだ。ホームページからの再診予約システムについては、対象診療科を拡大した。

重症患者の円滑な受入れ、高額医療機器稼働率の向上、施設基準の取得、未収金の回収等、収益確保に関する取組を行った。

《福岡市民病院》

4疾病への対応を中心に、難易度の高い手術等の提供を推進した。また、医師、看護師の定数管理を行い、救急専門医を増員したことにより、救急医療体制の充実を図った。

大型医療機器等の共同利用の推進、地域医療連携室における入退院支援体制の充実を図った。

「患者サポート相談窓口」の相談対応の強化・充実を図ったほか、独自設定した指標を加えた「病院指標」をホームページ上にわかりやすく公開した。

診療体制の充実や機能の強化による収益確保、材料費等の費用削減に向けた取組により、約1

億 4,700 万円の当期純利益を確保した。

両病院ともに地域医療支援病院としての役割を高めるため、積極的に病病連携・病診連携に努めている。

〈特筆すべき取組〉

≪福岡市立こども病院≫

先天性心疾患の手術症例数や川崎病センターにおける症例数が全国一となったほか、急性弛緩性脊髄炎に係る調査研究の結果をまとめた論文が、感染症分野において、信頼性と評価が高く、影響力が大きい米国感染症学会の機関誌（Clinical Infectious Diseases）に掲載され、その後、急性弛緩性麻痺として感染症に基づく五類感染症全数把握疾患に追加される法改正が行われた。

産科において、「多胎外来」「胎児心エコー外来」を新設、また、急性期リハビリテーションの実施促進のため、リハビリテーション科を新設した。

≪福岡市民病院≫

引き続き参加した「QI プロジェクト」において、好事例として取組実績が認められた。

看護相談窓口を開設し、患者や家族の不安や疑問について、一元的に対応できる体制を整えた。

評価にあたっての意見、指摘等

≪福岡市立こども病院≫

- ・ホームページからの再診予約システムの診療科拡大は、高く評価できる。
- ・医師もあまり一般的に知らないような病気が多数ある中、先進的な取組により、従来は助からなかった多数の患児を救っている。
- ・急性弛緩性脊髄炎の調査研究の結果をまとめた論文が、感染症分野において、信頼性と評価が高く、影響力が大きい米国感染症学会の機関誌に掲載され、また急性弛緩性麻痺が五類感染症として追加されたことは、一般病院で困難なことをやっており、非常に良いことである。

≪福岡市民病院≫

- ・新規入院患者数、手術件数、救急搬送件数の増は価値のあることである。
- ・ホームページのトップページに病院指標のバナーを貼っておりわかりやすい。
- ・経営基盤の強化に向けて頑張っており、収益確保の要となる病床利用率が改善している点を評価したい。

第2項 項目別評価

(1) 大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 A (計画以上に進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり 進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善 すべき事項がある (特に認める)
【 122 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
それぞれの病院に求められる高度専門医療について、患者のニーズや医療環境の変化に即して充実を図るとともに、医療の質の向上に向けて、さまざまな取組を行っている。多数の項目で目標を上回る成果を上げており、計画以上に進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目			評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	3	2	6
	(2) 地域医療への貢献と医療連携 の推進	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応		3	1	3
2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上	こども病院	4	2	8
		市民病院	3	2	6
	(2) 情報発信		4	1	4
3 医療の質の向 上	(1) 病院スタッフの確保と教育・研 修	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(2) 信頼される医療の実践	こども病院	3	2	6
		市民病院	4	2	8
合計				22	a 81
標準点(※全ての小項目評価が3)				b 66	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1-（1）良質な医療の実践 ア福岡市立こども病院」

- 腎・泌尿器センターやリハビリテーション科の新設、NICU・HCUの効率的・効果的な運用など、医療環境の変化等を踏まえ、高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実が図られた結果、新規入院患者数、手術件数、救急搬送件数をはじめ、すべての指標において目標値を上回ったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-（2）地域医療への貢献と医療連携の推進 ア福岡市立こども病院」

- 福岡県医師会診療情報ネットワーク（とびうめネット）の参加や「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院として地域ネットワークの構築や院内研修実施、「福岡県小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」への参加など、地域の医療機関との連携推進に向けて様々な取組を行っており、すべての指標について目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-（2）地域医療への貢献と医療連携の推進 イ福岡市民病院」

- 大型医療機器等の共同利用、医療従事者向けの研修会や地域医療機関への訪問等、地域医療支援病院として地域医療に貢献する役割を果たすよう様々な取組を行っており、地域医療連携室における入退院支援体制の充実により逆紹介率が150%を超えるなど、すべての指標において目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「2-（1）患者サービスの向上 ア福岡市立こども病院」

- 退院時アンケートの意見等を踏まえ、売店の弁当の品揃えの拡充や救急時に経口補水液が入手できるよう屋外に自販機を新設したほか、患児家族滞在施設（ふくおかハウス）の運営に当たっては高い利用率を維持するなど、来院者の利便性向上のため、ハード・ソフト両面で計画どおり院内環境の整備を進めた。
- 特に、ホームページからの再診予約システムの対象診療科の拡大や、退院時アンケートの高い水準を維持した目標を達成したことなどを積極的に評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「2-（2）情報発信」

- ホームページ等を活用し、病院が持つ機能等について、分かりやすい情報発信に取り組んだほか、こども病院フェスタの規模・内容を拡充したことにより、多数の市民等に対し認知度を向上させた。
- 特に福岡市民病院では、29年度から多数の病院指標を独自設定し、開示する情報の充実に努めていることを積極的に評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-（1）病院スタッフの確保と教育・研修 ア福岡市立こども病院」

- 「インターンシップ＆病院説明会」の開催（6回）や看護学実習の受入れなどの人材確保に向けた取組、また専門性向上に向けた看護職員の計画的研修及び資格取得に対する支援、医師及び看護師の支援体制の強化など、病院スタッフの確保及び専門性や医療の質の向上に向けた取組が多方面で実施されていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(1) 病院スタッフの確保と教育・研修 イ福岡市民病院」

○ 医師、看護師、その他の職種や新規採用職員を含め、適正数の確保と働きやすい職場環境づくりに向けた様々な取組を進めた結果、医師の増員により救急医療体制が更に充実されたことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 イ福岡市民病院」

○ 信頼される医療の実践に向け、感染防止対策の徹底や他病院との情報交換・相互評価、クリニカルパスの見直しや整理、薬剤師による投薬事故防止活動など、様々な取組を行うとともに、引き続き参加した「QIプロジェクト」においては、好事例として取組実績が認められたことなどから、一部の指標が目標値を下回ってはいるものの、総合的に勘案し、年度評価を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・こども病院におけるホームページからの再診予約システムの診療科拡大は、高く評価できる。
- ・市民病院の新規入院患者数、手術件数、救急搬送件数の増は価値のあることである。
- ・市民病院は、ホームページのトップページに病院指標のバナーを貼っておりわかりやすい。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善すべき事項がある (特に認める)
【 100 %】(a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
理事会の決定に沿った運営が行われるとともに、両病院ともに迅速な協議が行われている。事務部門の機能強化や働きがいのある職場環境づくりについても年度計画を着実に実施し、内部統制も適正に維持できていることから、年度計画を順調に実施していると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目	評価	ウエイト	ウエイト換算
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	3	1	3
2 事務部門の機能強化	3	1	3
3 働きがいのある職場環境づくり	3	1	3
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	3	1	3
合計		4	a 12
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

特になし。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき 進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んで いる(120%以上)	おおむね計画どおり 進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善 すべき事項がある (特に認める)
【 118 %】(a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
両病院とも増収及び費用削減に取り組み、経常収支比率をはじめとする経営3指標が目標値を上回ったほか、病床利用率、ジェネリック医薬品導入率も目標を達成したことなどから、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

⑤ 小項目評価の結果

項 目			評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 経営基盤の 強化	(1)経営基盤の強化と運営費負担 金の縮減	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(2)投資財源の確保		3	1	3
2 収支改善	(1)収益確保	こども病院	4	2	8
		市民病院	3	2	6
	(2)費用削減		3	2	6
合計				11	a 39
標準点(※全ての小項目評価が3)				b 33	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1-（1）経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 ア福岡市立こども病院」
 ○定例会議等で定期的に増収対策や費用削減の検討を重ね、迅速に職員に決定事項を周知した結果、効率的な病院経営が病院全体に進み、経常収支比率等の経営3指標がいずれも目標値を大きく上回ったことから、年度計画を上回って経営基盤の強化が図られていると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 イ福岡市民病院」 ○高度救急医療体制の充実を図ったことにより、救急患者搬送件数及び手術件数が目標値を上回ったほか、高度専門医療を提供する上で必要となる資源を投入したことにより、人員体制の最適化が図られるなど、経営基盤の強化が図られた。 ○その結果、数値目標を設定した3項目のすべての指標を達成していることを積極的に評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
「2-(1) 収益確保 ア福岡市立こども病院」 ○先天性心疾患に対応できるよう、看護師の増員や専任循環器医師の配置による体制を整備した結果、病床利用率が向上し、増収につながった。 ○また、重症患者の円滑な受入れ、高額医療機器稼働率向上、施設基準の取得、未収金の確実な回収などの取組により、収益確保に関する実績値のすべてが年度目標値を大きく超えていることから、年度計画を上回っていると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

・福岡市民病院において、経営基盤の強化に向けて頑張っており、収益確保の要となる病床利用率が改善している点を評価したい。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

① 評価結果 A（計画以上に進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある（特に認める）	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる（100%以上 120%未満）	やや遅れている（100%未満）	重大な改善すべき事項がある（特に認める）
【 150 %】（a 評価点（※ウエイト換算後の合計）／b 標準点 × 100）※小数点以下切捨て 福岡市立こども病院においては、医療機能の充実を図るとともに、調査研究論文が米国一流誌に掲載され、急性弛緩性麻痺が五類感染症に追加されたことなどの複数の特筆すべき成果を挙げていること、また、福岡市民病院においては、地域の基幹病院としての役割を果たしつつ、当期純利益を確保し、収支が改善されたことなどから、計画以上に進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目	評価	ウエイト	ウエイト換算
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	5	2	10
2 福岡市民病院における経営改善の推進	4	2	8
合計		4	a 18
標準点（※全ての小項目評価が3）		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1 福岡市立こども病院における医療機能の充実」

○こども病院においては、腎・泌尿器センターの新設をはじめ、当初、計画していた全ての項目について高いレベルで達成した。

○特に、先天性心疾患の手術症例数や川崎病センターにおける症例数が全国一となったほか、急性弛緩性脊髄炎に係る調査研究の結果をまとめた論文が、感染症分野において、信頼性と評価が高く、影響力が大きい米国感染症学会の機関誌（Clinical Infectious Diseases）に掲載され、その後、急性弛緩性麻痺として感染症法に基づく五類感染症全数把握疾患に追加される法改正が行われたことなど、複数の特筆すべき成果を挙げたことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。

「2 福岡市民病院における経営改善の推進」

○地域包括ケアシステムにおける地域の基幹病院としての役割を果たしつつ、診療体制の充実や機能の強化により収益を確保するとともに、材料費等の費用削減に取り組んだことにより、約1億4,700万円の当期純利益を確保されたほか、アセットマネジメント推進の観点からは、中長期修繕計画を策定し、施設・設備の適切な維持管理に取り組んでいる。

○収支が改善された点を積極的に評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

・医師もあまり一般的に知らないような病気が多数ある中、こども病院における先進的な取組により、従来は助からなかった多数の患児を救っている。

・こども病院における急性弛緩性脊髄炎の調査研究の結果をまとめた論文が、感染症分野において、信頼性と評価が高く、影響力が大きい米国感染症学会の機関誌に掲載され、また急性弛緩性麻痺が五類感染症全数把握疾患として追加されたことは、一般病院で困難なことをやっており、非常に良いことである。

- (2) 小項目評価
別紙のとおり

(別紙)

**地方独立行政法人福岡市立病院機構
平成２９年度の業務実績に関する評価結果**

小項目評価

福岡市立病院機構の概要

1 現況（平成29年 4 月 1 日現在）

① 法人名

地方独立行政法人福岡市立病院機構

② 本部の所在地

福岡市東区香椎照葉 5 丁目 1 番 1 号

③ 役員の状況

役員	氏名	備考
理事長	竹中 賢治	福岡市民病院 院長
副理事長	原 寿郎	福岡市立こども病院 院長
理事	石原 進	九州旅客鉄道株式会社 相談役
	久保 千春	九州大学 総長
	石井 幸充	前 福岡市代表監査委員
	東 秀史	福岡市民病院 副院長
	塚崎 恵子	福岡市民病院 看護部長
監事	伊達 健太郎	弁護士
	久留 和夫	公認会計士

④ 運営する病院

病院名	所在地	病床数
福岡市立こども病院	福岡市東区香椎照葉 5 丁目 1 番 1 号	一般病床 239床
福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町13番 1 号	一般病床 200床 感染症病床 4 床

⑤ 職員数

（平成29年 5 月 1 日現在）

区 分	職員数
合 計	911人
福岡市立こども病院	539人
福岡市民病院	361人
運営本部	11人

2 基本的な目標等

地方独立行政法人福岡市立病院機構は、地方独立行政法人制度の特長である自律性、自主性を最大限に発揮し、医療制度改革や診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ、効率的な病院経営を行いながら、地域の医療機関等との機能分担や連携の下、引き続き高度専門医療、救急医療等を提供し、地域における医療水準の向上、市民の健康の維持及び増進に寄与すべく、以下の基本理念及び基本方針の下、福岡市長から指示された中期目標を達成する。

〈基本理念〉

いのちを喜び、心でふれあい、すべての人を慈しむ病院を目指します。

〈基本方針〉

質の高い医療の提供

地域・社会に貢献する病院

健全な病院経営

1 法人の総括と課題

法人設立8年目となる平成29年度については、福岡市から示された第3期中期目標期間の初年度であり、第2期中期目標期間の業務実績を踏まえ、更なる医療機能の強化や経営の効率化等に取り組んだ。

福岡市から独立した法人として、地方独立行政法人制度の特長を最大限に生かした自律的な経営が求められていることを踏まえ、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となった運営を行うとともに、外部理事を含む理事会を定期的を開催し、経営管理の徹底を図った。

これらの経営基盤の下、第3期中期計画及び平成29年度の年度計画に基づき、こども病院においては、中核的な小児総合医療施設として、これまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、NICUの効率的・効果的な運用に取り組むなど、患者のニーズや医療環境の変化に即した診療体制の見直し等を図った。

また、福岡市民病院においては、4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図るとともに、高度救急医療並びに感染症医療機能の充実に努めた。

さらに、両病院ともに地域医療支援病院としての役割を踏まえ、積極的に地域の医療機関との連携強化に取り組み、地域医療への貢献に努めた。

経営収支面では、増収対策として、人員の適正配置や救急患者の受入体制の整備などを通じて、病床利用率の向上や手術件数の増加などに努めるとともに、コストパフォーマンスを考慮した診療材料等の選定や価格交渉の徹底など費用削減に取り組んだ結果、当期純利益はこども病院において9億2,500万円余、福岡市民病院において1億4,700万円余となった。

今後の課題としては、こども病院においては、求められる高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療を提供する病院としての役割を果たしていくため、必要な病床数や医療機能等について、医療環境の変化を踏まえながら、検討を進めていく必要がある。

また、福岡市民病院においては、地域医療構想、医療計画にて求められる高度専門医療並びに救急医療体制を提供するために必要な取組を継続して行うとともに、災害・新型インフルエンザ等発生時やその他の緊急時には、事業継続計画に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、市立病院として求められる役割を果たす必要がある。

2 大項目ごとの特記事項及び各病院の取り組み状況

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 医療サービス

福岡市の医療施策として求められる高度専門医療、高度救急医療等を引き続き提供するために、診療機能の更なる充実を図った。

こども病院においては、先天性の腎・泌尿器疾患への診療体制を強化するため、腎・泌尿器センターを新設したほか、急性期リハビリテーションへの対応を強化・充実するため、リハビリテーション科を新設した。また、NICUにおいて効率的・効果的な運用に取り組み、病床利用率は94%と高い水準で稼働した。HCUにおいても、先天性心臓病患者の増加等を踏まえ、看護師の増員や専任の循環器医師の配置など体制整備を行い、重症患者への対応強化を図った。

福岡市民病院においては、医療法で定められた医療計画における4疾病への対応を中心に、高度専門医療の更なる充実を図るため、脳神経血管内治療部による血管内治療や、循環器内科による経皮的心筋焼灼術（アブレーション）等難易度の高い手術等の提供を一層推進した。また、救急専門医の増員等、救急医療体制の更なる充実を図ったほか、新型インフルエンザ等発生時を想定した独自の実動訓練を実施するなど、感染症発生時への対応強化に取り組んだ。

また、両病院ともに地域医療支援病院としての役割を更に高めるため、開放型病床への登録医の拡大やオープンカンファレンスの開催などを通じて、地域の医療機関を中心に積極的な病病連携・病診連携に努めた。こども病院においては、「福岡県小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に参加し、医療的ケア児童家族の支援に寄与する活動を開始した。

さらに、災害発生に備え、総合防災訓練や避難誘導訓練等を実施し、職員の防災意識及び対応力の向上を図るとともに、非常用発電設備及び備蓄物品等の点検などを徹底した。福岡市民病院においては、福岡県内の自治体病院間における災害時相互応援協定の事務局として、協定病院間における情報連絡など適切な対応を行った。

(2) 患者サービス

患者一人ひとりに質の高い医療及び充実した看護を提供することが患者サービスの基本と捉えたうえで、より一層の接遇改善を含め、職員が一丸となって患者サービスの向上に取り組むとともに、ボランティアの協力も得ながら患者満足度の向上に努めた。

こども病院においては、患者の利便性向上のため、屋外案内看板の改良や病室内シャワー室の環境整備等に取り組んだほか、「外国人支援通訳サポーター登録制度」を創設し、通訳サービス等の支援を行う5人のサポーターの参加を得た。

福岡市民病院においては、患者サポート相談窓口看護師及び医療メディエーター研修を修了した事務職員を常時配置するなど、相談対応の強化・充実を図ったほか、患者家族控室や一般病室の一部改修を行うなど、療養環境の整備・充実

を図った。

さらに、両病院ともに、診療内容・医療サービスや「病院指標」に示される治療実績など様々な情報を発信し、患者が安心して受診できるよう、市民に開かれた病院づくりに努めた。

(3) 医療の質の向上

医療水準の向上を図る観点から、魅力的な職場づくりを推進し、優れた人材の確保に努めるとともに、研修内容の充実などにより職員の資質向上を図った。

こども病院においては、意欲ある人材を確保するため、看護学生等を対象に「インターンシップ&病院説明会」を開催するとともに、新人看護職員、新任期看護職員等を対象とした研修を計画的に開催するなど、看護職員の資質向上に努めた。

福岡市民病院においては、院内のワーク・ライフ・バランス推進委員会において年休の取得率向上に取り組んだほか、院内研修の充実や、認定看護師等資格取得支援制度の利用を促進し、専門職としての知識・技術の向上を図った。

また、両病院ともに、医師の負担軽減を図るため、医師業務について他職種へのタスク・シフティングを推進するなどの取組を強化した。

さらに、市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、感染症専門医や感染管理認定看護師等を中心に院内の感染防止対策の徹底を図るとともに、医療安全に関する研修会の開催や院内各部署への迅速な情報共有等を通じて、職員の安全対策に対する意識向上を図るなど、医療安全対策の強化を図った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実

市立病院機構の運営を的確に行うため、平成29年度は計9回の理事会を開催し、理事会の方針決定に沿った運営を行った。

また、病院長のリーダーシップの下、執行部会議や診療科長等情報連絡協議会等を開催し、各病院の現場の実態に即した迅速かつ効果的な経営を行うとともに、法人の経営幹部で構成する経営会議及び運営調整会議を毎月開催し、機構全体的な視点から、市立病院として適切な独法運営に取り組んだ。

(2) 事務部門等の専門性の向上

マネジメント能力向上等を目的に、昇任者を対象とした監督者研修を実施したほか、院内研修の定期的開催や、外部研修の受講を積極的に推奨するなど、経営感覚に優れた事務職員の育成に努めた。

(3) 働きがいのある職場環境づくり

職員が安心して働きつづけることができるよう、院内保育所定員の拡大など福利厚生の実施に取り組むとともに、年休取得率の向上や時間外勤務の縮減に努めるなど、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組を行った。

また、労働契約法の改正を踏まえ、有期雇用職員が無期雇用に転換できる制度の

構築に取り組んだ。

(4) 法令遵守と公平性・透明性の確保

監督者研修や各種会議など様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めたほか、各種監査等を通じて内部統制を適正に維持し、市立病院として適正な運営を行った。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 経営基盤の強化

経営会議を毎月開催し、随時、経営状況の検証を行い、課題に応じた適切な改善策を講じるとともに、各病院においても、各種会議等を通じて、各部署の課題や取組方針等についての情報を共有化するなどにより、経営に関する目標達成状況の把握・管理を徹底した。

また、自己財源の確保対策として、収支改善による利益の確保とともに、積立金の運用方法を工夫するなどにより積立金の運用利益を確保したほか、価格交渉の徹底等により必要な医療機器を確保しつつ費用の抑制を図るなど、効率的な予算執行と自己財源の確保に努めた。

市民病院については、これらの他、高度救急医療に係る診療体制の充実等により入院収益の確保が図られ、運営費負担金を前年度より約2億円縮減した計画の中で、経常収支比率の目標値を上回ることができた。

(2) 収支改善

こども病院においては、HCUやNICUを中心に効率的な病床管理による病床利用率の向上を図るとともに、リハビリテーション科の新設や医師事務作業補助者増員による新たな施設基準の取得、保険診療検討ワーキングチームを中心とした他職種による査定対策の実施、高額医療機器の有効活用など様々な対策に取り組んだ結果、入院収益は78億2,800万円余で、前年度より2億500万円余の増となった。

福岡市民病院においても、救急専門医の増員など救急医療体制の更なる充実を図った結果、全入院手術について前年度と比較して約9,000万円の増収となるなど入院収益の確保が図られ、この他、リハビリテーション科の新設による初期加算の算定、より精度の高いレセプト請求を行うなどにより、更なる収益増に努めた。

一方、費用削減対策については、診療材料の同種同効品への切り替えや、ジェネリック医薬品の使用拡大により価格低減を図るとともに、経費全般においても価格交渉の徹底、契約手法の見直しに努め、削減を図った。

これらの結果、両病院ともに、経営に関する3指標（総収支比率、経常収支比率、医業収支比率）の目標をすべて達成し、市立病院機構全体での当期純利益は10億7,300万円余となった。

【医業収益】

(単位：千円)

区 分	平成28年度実績	平成29年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	8,737,523	9,084,896 (8,283,293)	347,373 (801,603)
福岡市民病院	5,496,483	5,686,233 (5,687,674)	189,750 (▲1,441)
法人全体	14,234,006	14,771,129 (13,970,967)	537,123 (800,162)

【営業費用】

(単位：千円)

区 分	平成28年度実績	平成29年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	9,551,715	9,646,944 (9,697,680)	95,229 (▲50,736)
福岡市民病院	6,226,606	6,090,349 (6,177,459)	▲136,257 (▲87,110)
法人全体	15,778,321	15,737,294 (15,875,139)	▲41,027 (▲137,845)

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがある。

【経常収支比率】

(単位：%)

区 分	平成28年度実績	平成29年度実績 ()は29年度目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	107.0	109.4 (101.0)	2.4 (8.4)
福岡市民病院	100.1	102.4 (101.1)	2.3 (1.3)
法人全体	104.3	106.7 (101.1)	2.4 (5.6)

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

(1) 福岡市立こども病院における医療機能の充実

こども病院に求められる役割を果たすため、腎・泌尿器センター、リハビリテーション科、産科に「多胎外来」及び「胎児心エコー外来」を新設するなど、中核的な小児医療施設として医療機能の充実を図った。

また、厚生労働省DPC公開データにおいて、昨年度に引き続き、川崎病センターにおける症例数及び先天性心疾患に係る手術症例数について、成人を含む全国のDPC病院の中で全国一位となった。また、脊椎手術症例についても全国二位となる等、順調に成果を挙げた。

さらに、臨床研究部において、日本医療研究開発機構（AMED）と科研費（文部科学省）で課題が新たに採択される等、臨床研究に積極的に取り組み、共同研究を含め10件の研究に参加した。この際、急性弛緩性脊髄炎に係る調査研究の結果をまとめた論文が米国一流誌に掲載されるとともに、急性弛緩性麻痺が五類感染症として追加される等、著しい成果を挙げた。

また、外国人医師の受入や日本小児科学会のアジア若手医師育成プログラムへの参加、職員の外国語能力・コミュニケーションの質の向上のための研修活動等の強化を図ったほか、脳死下における臓器提供施設整備に向け、対応マニュアルの作成・机上シミュレーションの実施などに取り組んだ。

(2) 福岡市民病院における経営改善の推進

市立病院として求められる役割を果たすため、高度専門医療、高度救急医療及び感染症医療に必要な医療資源（人的・物的）の投入を的確に行うとともに、薬品費・材料費等の費用削減に取り組んだ結果、運営費負担金を前年度に比べて約2億円縮減した計画の中で、経常収支比率の目標値を上回り、1億4,700万円余の経常利益を確保した。

また、地域医療支援病院として、かかりつけ医との連携等、地域の医療水準全体の底上げを目標とした諸活動を継続して行うとともに、福岡市のアセットマネジメント推進プランに基づき、施設の長寿命化及び費用の標準化を目的とした中長期修繕計画を策定し、施設・設備の適切な維持管理に取り組んだ。

【福岡市民病院 医業収支比較】

(単位：百万円)

区 分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
医業収益 a	4,526	4,881	5,039	4,886	5,311	5,739	5,496	5,686
営業費用 b	4,687	4,849	5,034	5,066	5,486	6,228	6,227	6,090
差引 (a - b)	▲161	32	5	▲180	▲175	▲489	▲730	▲404
医業収支比率 (a / b)	96.6 %	100.7 %	100.1 %	96.4 %	96.8 %	92.1 %	88.3 %	93.4% (92.0%)

(注1) () 内は目標値

(注2) 平成27年度決算より、消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更している。

【主な目標値の達成状況】

区 分		福岡市立こども病院			福岡市民病院		
		29年度 目標値	29年度 実績値	達成率	29年度 目標値	29年度 実績値	達成率
患者 動 向	1人1日当たり入院単価（円）	99,100	101,114	102.0	65,600	64,141	97.8
	1人1日当たり外来単価（円）	11,700	12,756	109.0	20,200	20,907	103.5
	1日当たり入院患者数（人） （病床利用率（％））	203.0 (84.9)	212.1 (88.7)	104.5 (104.5)	183.6 (90.0)	189.7 (93.0)	103.3 (103.3)
	新規入院患者数（人）	6,130	6,908	112.7	4,750	4,709	99.1
	平均在院日数（日）	11.0	10.2	107.8	12.5	12.6	99.2
	1日当たり外来患者数（人）	300.0	358.9	119.6	245.0	226.8	92.6
医 業 活 動	手術件数（件）	2,620	2,760	105.3	3,100	3,534	114.0
	救急搬送件数（件）	1,030	1,332	129.3	2,700	3,011	111.5
	紹介率（％）	80.0	87.9	109.9	84.0	86.5	103.0
	逆紹介率（％）	45.0	65.9	146.4	140.0	151.2	108.0
	薬剤管理指導件数（件）	8,950	7,592	84.8	9,350	10,212	109.2
	栄養食事指導・相談件数（件）	650	1,042	160.3	1,200	1,070	89.2
患 者 満 足	退院時アンケートの平均評価点数 （こども病院）（100点満点）	88.0	88.8	100.9	—	—	—
	患者満足度調査における平均評価 点数（福岡市民病院）（100点満点）	—	—	—	88.0	90.1	102.4
経 営 収 支	給与費対医業収益比率（％）	59.1	52.6	112.4	56.3	54.9	102.6
	材料費対医業収益比率（％）	19.7	19.8	99.5	27.2	27.7	98.2
	薬品費対医業収益比率（％）	7.4	7.3	101.4	10.1	9.2	109.8
	診療材料費対医業収益比率（％）	11.9	12.3	96.7	17.0	18.5	91.9
	委託費対医業収益比率（％）	10.4	9.2	113.0	7.3	7.4	98.6
	ジェネリック医薬品導入率（％）※	80.0	92.0	115.0	82.0	86.6	105.6
	総収支比率（％）	101.0	109.4	108.3	101.1	102.4	101.3
	経常収支比率（％）	101.0	109.4	108.3	101.1	102.4	101.3
	医業収支比率（％）	85.4	94.2	110.3	92.0	93.4	101.5

※ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。

項目別の状況

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア 福岡市立こども病院 高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実に取り組むとともに、医療環境の変化等を踏まえ、福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう、診療機能（特に集中治療系病床等）の充実や見直しを図る。	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア 福岡市立こども病院 ○ 尿路・生殖器先天奇形や、先天性腎・尿路異常（CAKUT）治療において、診断から手術、長期的な観察まで包括的・集学的な診療を行う、小児医療専門施設では全国初となる「腎・泌尿器センター」を設置する。 ○ 平成28年度に増床したNICU（12床→18床）について、GCUや他の関連部門との連携を深め、効率的・効果的な運用を行う。 ○ 先天性心臓病患者の増加等を踏まえ、HCUの人員体制の整備等、重症患者への対応強化に向けた取り組みを行う。

中期目標(内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的・継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 ア 福岡市立こども病院 これまで培ってきた高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、中核的な小児総合医療施設として求められる役割を果たすこと。
-----------------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 先天性の腎・泌尿器疾患への診療体制を強化するため、4月より腎・泌尿器センターを新設した。対象となる症例数(下部尿路疾患、先天性下部尿路疾患、慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全)は、対前年度比で65人(48%)、延べ678人(43%)増加した。 ○ 平成28年度に病床再編により増床したNICUの効率的・効果的な運用に取り組み、重症度の高い症例を積極的に受け入れた結果、病床利用率は94%と高い水準で稼働した。(対前年度比で、1日当たり患者数は13.3人→16.9人と増加) ○ HCUについては、先天性心臓病患者の増加等を踏まえ、看護師を増員するとともに、専任の循環器医師を配置して先天性心臓病に対する術前術後管理を効率的・効果的に行うための体制整備を実施し、段階的に病床稼働へ向けた取り組みを進めた結果、病床利用率は72.6%(平成28年度:68.3%)となった。 ○ 産科においては、当院の特徴である多胎妊娠の周産期管理と先天性心疾患の胎児診断について、開業医や周産期施設等に広く周知し、円滑な受け入れを促進するため、10月より、専門外来としてそれぞれ、「多胎外来」及び「胎児心エコー外来」を産科に新設した。 ○ 治療開始後又は手術後、早期から急性期リハビリテーションの実施を更に促進するため、11月にリハビリテーション科を新設した。 ○ 医師、看護師、助産師、臨床心理士等で構成する妊産婦メンタルヘルスケアチームを設置し、産後うつ病のスクリーニングなど、周産期のメンタルヘルスケアに取り組んだ。 ○ 主な目標値については、全ての指標で目標を上回った。1日あたり入院患者数、手術件数、救急搬送件数など、対前年度実績、対目標値ともに大きく上回った。	2	4	4	○ 腎・泌尿器センターやリハビリテーション科の新設、NICU・HCUの効率的・効果的な運用など、医療環境の変化等を踏まえ、高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実が図られた結果、新規入院患者数、手術件数、救急搬送件数をはじめ、すべての指標において目標値を上回ったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】			【目標値】		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	96,877	99,400	1人1日当たり 入院単価（円）	96,877	99,100
1人1日当たり 外来単価（円）	12,458	11,700	1人1日当たり 外来単価（円）	12,458	11,700
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	184.4 (78.0)	207.8 (86.9)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	184.4 (78.0)	203.0 (84.9)
新規入院患者数（人）	6,038	6,200	新規入院患者数（人）	6,038	6,130
平均在院日数（日）	10.2	11.2	平均在院日数（日）	10.2	11.0
1日当たり 外来患者数（人）	288.9	300.0	1日当たり 外来患者数（人）	288.9	300.0
手術件数（件）	2,447	2,650	手術件数（件）	2,447	2,620
救急搬送件数（件）	1,028	1,050	救急搬送件数（件）	1,028	1,030

評価の判断理由（実施状況等）			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指標	福岡市立こども病院					
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値				
1人1日当たり 入院単価（円）	101,587	101,114				
1人1日当たり 外来単価（円）	12,378	12,756				
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	205.6 (86.0)	212.1 (88.7)				
新規入院患者数(人)	6,429	6,908				
平均在院日数（日）	10.7	10.2				
1日当たり 外来患者数（人）	329.3	358.9				
手術件数（件）	2,695	2,760				
救急搬送件数（件）	1,178	1,332				

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 イ 福岡市民病院 ① 医療法で定められた医療計画における4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病)への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図る。 ② 救急患者の受入れを円滑に行うとともに、より重篤な救急患者の受入れを行う高度救急医療の強化充実を図る。 ③ 新型インフルエンザ等対策措置法における「指定地方公共機関」として、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、福岡市における対策の中核的役割を果たすため、別途定めるBCP(事業継続計画)に基づき適切に対応する。	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 イ 福岡市民病院 ○ 医療法で定められた医療計画における4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病)への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図るため、脳神経血管内治療部による血管内治療や、循環器内科による経皮的心筋焼灼術(アブレーション)等難易度の高い手術等の提供を一層推進する。また、消化器内科医の増員等により、診療体制の充実を図る。 ○ 救急専門医の増員など救急部の受入体制強化を行い、脳疾患、循環器疾患、重症外傷等の重篤な救急患者の受入及び手術件数の増加を図る。 ○ 新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、別途定める事業継続計画(BCP)に基づき適切に対応することにより、福岡市における対策の中核的役割を果たす。

中期目標（内容）	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的・継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 イ 福岡市民病院 高度専門医療を担う地域の中核病院としての機能を維持するとともに、高度救急医療の更なる充実を図ること。 また、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、福岡市における対策の中核的役割を果たすため、必要な対応を図ること。
-----------------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 医療法で定められた医療計画における４疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に、高度専門医療の更なる充実を図った。 がんに対しては、消化器センター・肝胆膵センターを中心に、患者にとって侵襲の少ない鏡視下手術や化学療法等を組み合わせた集学的治療を提供した。消化器専門医の増員もあり、前年度を上回る件数の手術を実施した（外科の癌手術症例数：28年度182件→29年度193件、内視鏡手術：28年度563件→29年度855件）。 脳卒中領域においては、脳神経血管内治療部（脳神経外科医１人・神経内科医１人）により、t-PA療法（血栓溶解療法）に加え、血管内治療や外科的治療等を含めた急性期治療を包括的に提供した（経皮的脳血管内手術件数：63件）。 循環器内科においては、心臓カテーテル検査において多職種協働を推進するなど、診療体制の充実に努め、P C I（冠動脈狭窄性病変に対しカテーテルを用いて拡張を行う治療）を含めた手術件数が大幅に増加した（28年度：377件→29年度：474件）。また、アブレーション（経皮的心筋焼灼術）機器を新たに導入し、治療開始後早期からの心大血管疾患リハビリテーション実施を推進するなど診療内容の充実に努めた。 さらに、糖尿病患者の重症化予防のため、医師、看護師、管理栄養士等多職種協働による重点的な医学管理指導を実施した。 ○ 救急専門医の増員等、救急医療体制のさらなる充実を図り、救急搬送件数は増加し（28年度2,670件→29年度3,011件）、手術室における緊急手術件数も増加した（28年度：708件→29年度：812件）。 ○ 新型インフルエンザ患者の受入から入院後の診療・看護に係る当院独自の実働訓練を実施し、院内における措置手順の検証、問題点の抽出及び意見交換を行い、感染症発生時におけ	2	4	3	○ ４疾病を中心とした高度専門医療の更なる充実や消化器専門医を増員するなど診療体制の充実により、計画どおり手術件数を着実に増加したほか、救急受入態勢の強化により、救急搬送件数も目標以上に増加した。 ○ また、新型インフルエンザの発生を想定した独自の訓練を実施し、非常時に備えた対応能力向上を図っている。 ○ 数値目標を設定した８項目の指標のうち、新規入院患者数など半数の項目はやや目標値を下回っているものの、計画どおり診療機能の強化が図られ、手術件数等の増加に結びついていることなどを総合的に勘案し、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価３」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】			【目標値】		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	64,749	67,000	1人1日当たり 入院単価（円）	64,749	65,600
1人1日当たり 外来単価（円）	22,739	18,200	1人1日当たり 外来単価（円）	22,739	20,200
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	183.7 (90.1)	183.6 (90.0)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	183.7 (90.1)	183.6 (90.0)
新規入院患者数(人)	4,510	4,800	新規入院患者数(人)	4,510	4,750
平均在院日数（日）	12.6	12.5	平均在院日数（日）	12.6	12.5
1日当たり 外来患者数（人）	234.2	250.0	1日当たり 外来患者数（人）	234.2	245.0
手術件数（件）	3,060	3,100	手術件数（件）	3,060	3,100
救急搬送件数（件）	2,620	2,800	救急搬送件数（件）	2,620	2,700

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価																														
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
る対応能力の向上を図った。 ○ 主な目標値については，１人１日当たり入院単価，新規入院患者数，平均在院日数は目標値に達しなかったが，前年度より大幅に改善した。また，１人１日当たり外来単価，１日当たり入院患者数，手術件数，救急搬送件数については，目標値を上回った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr><tr><td>１人１日当たり 入院単価（円）</td><td>62,434</td><td>64,141</td></tr><tr><td>１人１日当たり 外来単価（円）</td><td>22,997</td><td>20,907</td></tr><tr><td>１日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））</td><td>181.3 (88.9)</td><td>189.7 (93.0)</td></tr><tr><td>新規入院患者数 （人）</td><td>4,438</td><td>4,709</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>13.0</td><td>12.6</td></tr><tr><td>１日当たり 外来患者数（人）</td><td>229.1</td><td>226.8</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>3,100</td><td>3,534</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>2,670</td><td>3,011</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	１人１日当たり 入院単価（円）	62,434	64,141	１人１日当たり 外来単価（円）	22,997	20,907	１日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	181.3 (88.9)	189.7 (93.0)	新規入院患者数 （人）	4,438	4,709	平均在院日数（日）	13.0	12.6	１日当たり 外来患者数（人）	229.1	226.8	手術件数（件）	3,100	3,534	救急搬送件数（件）	2,670	3,011				
指標		福岡市民病院																															
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値																															
１人１日当たり 入院単価（円）	62,434	64,141																															
１人１日当たり 外来単価（円）	22,997	20,907																															
１日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	181.3 (88.9)	189.7 (93.0)																															
新規入院患者数 （人）	4,438	4,709																															
平均在院日数（日）	13.0	12.6																															
１日当たり 外来患者数（人）	229.1	226.8																															
手術件数（件）	3,100	3,534																															
救急搬送件数（件）	2,670	3,011																															

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
----------	--

中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、かかりつけ医等の支援を通じて地域医療への貢献に取り組む。 ② 地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 ③ 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、地域における医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。 ④ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおいて急性期病院が担うべき役割として、地域の在宅医療を担う訪問看護ステーションやかかりつけ医等との積極的な連携、支援を行い、在宅復帰支援体制並びに緊急時の入院受入体制の強化を図る。	ア 福岡市立こども病院 ○ かかりつけ医からの開放型病床登録医数の拡大に向け、市内のみならず、近隣医師会員への積極的な呼びかけを行う。 ○ 「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院として、また、「福岡市障がい者等地域生活支援協議会こども部会」中核病院として、地域の小児在宅医療推進を支援するため、地域における小児等在宅医療のネットワーク構築や、院内における退院支援、研修会等を一層充実させる。

中期目標（内容）	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進すること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ かかりつけ医・病院，消防・救急隊が入院時や退院時に連携して医療を支援する福岡県医師会診療情報ネットワーク（とびうめネット）の登録医療機関として，12月に参加した。 ○ 「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院として，地域の小児在宅医療推進を支援するため，地域における小児等在宅医療のネットワーク構築や，院内における退院支援，地域の在宅医療従事者向け研修会の充実を図った。 ○ 「福岡県小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に参加し，医療的ケア児童家族の支援に寄与する活動を開始した。 ○ 登録医へのアンケート調査を実施する等，病診連携の課題掘り起しとその改善に努め，逆紹介率の向上に繋がった。（対前年度54.8%→65.9%） ○ 厚生労働省が推進する移行期医療について，「小児慢性特定疾病児童成人移行期医療支援モデル事業」に継続して参加し，循環器科においては，九州大学病院を始めとする成人循環器内科への転院を進めるとともに，外来に看護師主体の移行期支援外来（たけのこ外来）を設置し，独自の移行期患者教育プログラムを実施した。 ○ これらの取組の結果，すべての指標について目標値を上回った。	2	4	4	○ 福岡県医師会診療情報ネットワーク（とびうめネット）の参加や「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院として地域ネットワークの構築や院内研修実施，「福岡県小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」への参加など，地域の医療機関との連携推進に向けて様々な取組を行っており，すべての指標について目標値を上回っていることから，年度計画を上回って実施していると判断されるため，「評価4」とする。

中期計画				年度計画			
【目標値】				【目標値】			
指標		福岡市立こども病院		指標		福岡市立こども病院	
		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値			平成27年度 実績値	平成29年度 目標値
紹介率 (%)		78.4	80.0	紹介率 (%)		78.4	80.0
逆紹介率 (%)		50.2	46.0	逆紹介率 (%)		50.2	45.0
オープンカン ファレンス	回数 (回)	45	45	オープンカン ファレンス	回数 (回)	45	45
	参加者数 (人)	1,713	1,300		参加者数 (人)	1,713	1,300
開放型病床への登録 医数 (人)		193	300	開放型病床への登録 医数 (人)		193	300
退院支援計画件数 (件)		150	200	退院支援計画件数 (件)		150	170

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価																														
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
【実績値】 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr><tr><td colspan="2">紹介率（％）</td><td>90.1</td><td>87.9</td></tr><tr><td colspan="2">逆紹介率（％）</td><td>54.8</td><td>65.9</td></tr><tr><td rowspan="2">オープンカン ファレンス</td><td>回 数 （回）</td><td>48</td><td>46</td></tr><tr><td>参加者数 （人）</td><td>1,771</td><td>1,865</td></tr><tr><td colspan="2">開放型病床への登録 医数（人）</td><td>297</td><td>303</td></tr><tr><td colspan="2">退院支援計画件数 （件）</td><td>200</td><td>229</td></tr></table>	指標		福岡市立こども病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	紹介率（％）		90.1	87.9	逆紹介率（％）		54.8	65.9	オープンカン ファレンス	回 数 （回）	48	46	参加者数 （人）	1,771	1,865	開放型病床への登録 医数（人）		297	303	退院支援計画件数 （件）		200	229				
指標			福岡市立こども病院																														
		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値																														
紹介率（％）		90.1	87.9																														
逆紹介率（％）		54.8	65.9																														
オープンカン ファレンス	回 数 （回）	48	46																														
	参加者数 （人）	1,771	1,865																														
開放型病床への登録 医数（人）		297	303																														
退院支援計画件数 （件）		200	229																														

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス （2）地域医療への貢献と医療連携の推進
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス （2）地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、かかりつけ医等の支援を通じて地域医療への貢献に取り組む。 ② 地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 ③ 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、地域における医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。 ④ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおいて急性期病院が担うべき役割として、地域の在宅医療を担う訪問看護ステーションやかかりつけ医等との積極的な連携、支援を行い、在宅復帰支援体制並びに緊急時の入院受入体制の強化を図る。	イ 福岡市民病院 ○ 地域医療支援病院として、大型医療機器等の共同利用や入院患者への共同診療、地域の医療従事者に対するオープンカンファレンス等の研修会実施など、かかりつけ医等の支援について更なる充実を図る。 ○ 「顔の見える連携」を基本として、紹介患者への最適な医療を提供するとともに、地域医療構想における急性期病院としての役割を明確にし、かかりつけ医や他の病院との連携体制の更なる充実を図る。 ○ 地域包括ケアシステムについて、医師会をはじめ関係団体と連携し、急性期医療に関する研修の実施など、地域の在宅医療を担う医療従事者への積極的な支援を行う。また、入退院支援部門を拡充し、入院予定患者への支援を行うとともに、在宅復帰支援においては多職種による退院前カンファレンス等を充実させるなど、地域の医療機関・介護関連施設等との更なる連携強化を図る。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進すること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 地域医療支援病院としての役割を果たすため、大型医療機器等の共同利用を推進するとともに、地域医療連携室における入退院支援体制の更なる充実を図り、円滑な患者の受け入れ、急性期治療後の状態に応じた退院・転院調整に努めた。(医療機器共同利用件数：542件)(患者相談件数：15,073件、うち転院調整件数：5,253件) また、他医療機関からも参加可能な看護師研修、緩和ケア研修会、ALS講習会など医療従事者向けの専門知識・技術等に関する研修会、地域住民への健康教室出張セミナー(医療講演)を継続して実施した。 脳卒中や大腿骨頸部骨折の病病連携に当たっては、福岡市医師会方式の地域連携パスを使用し、地域連携ワークショップ、カンファレンスを通じて、連携先医療機関との情報交換に努めた。脳卒中連携パスの使用実績については303件と、福岡市内の急性期病院で最多であった。 ○ 医師・MSWによる地域の医療機関への積極的な訪問、案内を昨年に引き続き実施した(開放型登録医数：28年度270人→29年度302人)。これにより、初診紹介患者数が増加した(28年度4,457人→29年度4,634人) ○ 地域包括ケアシステムにおいては、博多区の基幹病院として博多区医師会との連携のもと、在宅医療を担う医療スタッフへの教育講演を実施するなど、同システムの推進に注力した。 ○ 看護相談窓口を開設し、患者やその家族からの医療・介護に関する不安や疑問について、一元的に対応できる体制を整えた。 ○ これらの取組の結果、すべての指標について目標値を上回った。	2	4	4	○ 大型医療機器等の共同利用、医療従事者向けの研修会や地域医療機関への訪問等、地域医療支援病院として地域医療に貢献する役割を果たすよう様々な取組を行っており、地域医療連携室における入退院支援体制の充実により逆紹介率が150%を超えるなど、すべての指標において目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画			
【目標値】				【目標値】			
指標		福岡市民病院		指標		福岡市民病院	
		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値			平成27年度 実績値	平成29年度 目標値
紹介率 (%)		82.1	85.0	紹介率 (%)		82.1	84.0
逆紹介率 (%)		147.0	140.0	逆紹介率 (%)		147.0	140.0
オープンカン ファレンス	回数 (回)	83	70	オープンカン ファレンス	回数 (回)	83	70
	参加者数 (人)	1,477	1,400		参加者数 (人)	1,477	1,400
開放型病床への登 録医数 (人)		174	200	開放型病床への登 録医数 (人)		174	270
退院調整件数(件)		904	950	退院調整件数(件)		904	920

評価の判断理由（実施状況等）				自己評価		市長の評価																														
				ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
【実績値】 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr><tr><td colspan="2">紹介率（％）</td><td>87.3</td><td>86.5</td></tr><tr><td colspan="2">逆紹介率（％）</td><td>154.6</td><td>151.2</td></tr><tr><td rowspan="2">オープンカンファレンス</td><td>回数 （回）</td><td>85</td><td>78</td></tr><tr><td>参加者数 （人）</td><td>1,609</td><td>1,573</td></tr><tr><td colspan="2">開放型病床への登録医数（人）</td><td>270</td><td>302</td></tr><tr><td colspan="2">退院調整件数（件）</td><td>1,022</td><td>1,191</td></tr></table>				指標		福岡市民病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	紹介率（％）		87.3	86.5	逆紹介率（％）		154.6	151.2	オープンカンファレンス	回数 （回）	85	78	参加者数 （人）	1,609	1,573	開放型病床への登録医数（人）		270	302	退院調整件数（件）		1,022	1,191				
						指標		福岡市民病院																												
				平成28年度 実績値	平成29年度 実績値																															
				紹介率（％）		87.3	86.5																													
				逆紹介率（％）		154.6	151.2																													
				オープンカンファレンス	回数 （回）	85	78																													
					参加者数 （人）	1,609	1,573																													
				開放型病床への登録医数（人）		270	302																													
退院調整件数（件）		1,022	1,191																																	

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (3) 災害時等の迅速かつ的確な対応
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 医療サービス (3) 災害時等の対応 ① 災害発生時やその他の緊急時においては、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内のBCP（事業継続計画）等に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、患者の受入や医療従事者の派遣など迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たす。 ② 防災対策の点検や必要物品等の備蓄確認等を徹底し、災害対応に備えた万全な体制を維持する。 ③ 他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの的確に医療救護活動の支援に努める。	○ 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内の事業継続計画（BCP）等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えるとともに、院内防災マニュアルの周知や防災訓練の実施等を通じ、職員の防災意識を高める。 ○ 非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底し、災害発生時の万全な対応に備える。 ○ 他の自治体における大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなど、的確に医療救護活動の支援に努めるとともに、福岡市民病院においては、平成28年11月に締結した福岡県内の自治体病院間における災害時相互応援協定の事務局としての役割を適切に果たす。

中期目標（内容）	災害発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。 また、他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの確に医療救護活動の支援に努めること。
-----------------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 市立病院としての役割を果たすため、災害発生に備え、消防計画に基づく総合防災訓練や避難誘導訓練等を適宜実施し、職員の対応力を高めるとともに、非常用発電設備及び備蓄物品等の点検などを徹底した。 ○ こども病院においては、熊本地震の影響で受入を行ってきた熊本市市民病院職員による、自身の震災経験に基づいた講演会の開催等により、職員の防災意識向上に努めた。 また、昨年度策定した事業継続計画（BCP）に基づき、トランシーバーやヘルメット等の防災用品の配備を行った。 さらに、日本看護協会の災害支援ナース3人が登録を更新し、そのうち1人が、7月の九州北部豪雨の際に朝倉郡東峰村で支援活動を行った。 ○ 市民病院においては、福岡県災害時医療救護マニュアル改定を受け、福岡県医師会災害医療プログラム（カテゴリーⅡ）が策定されたことを踏まえ、これらと整合性を持たせたBCPの策定を進めた。 また、新型インフルエンザ等対策特別措置法における「指定地方公共機関」として、前年度策定した新型インフルエンザ等発生時におけるBCPに基づき、3月に福岡検疫所及び保健所等の関係機関に周知した上で、新型インフルエンザ患者の受入から入院後の診療・看護に係る市民病院独自の実働訓練を実施し、院内における措置手順の検証、問題点の抽出及び意見交換を行い、新型インフルエンザ等の感染症発生時における対応能力の向上を図った。 さらに、福岡県内の自治体病院間における災害時相互応援協定の事務局として、協定病院の災害時連絡体制の定期確認及び情報提供を行うとともに、7月の九州北部豪雨の際は、協定病院の被災状況の確認を行う等、適切な対応を行った。	1	3	3	○ 災害発生に備えた訓練の実施や設備・備品の点検の徹底が図られたほか、市民病院においては、独自の新型インフルエンザ対応訓練を実施した。 ○ また、7月に発生した九州北部豪雨の際は、支援活動を行うだけでなく、福岡県自治体病院間における災害時相互応援協定の事務局として適切な対応を行っており、両病院とも市立病院としての役割を果たせるようハード・ソフト両面で体制が整えられていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上
-----------------	---

中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者のニーズを的確に捉えた上で、より一層の患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。 ④ ボランティアとの連携などにより、市民・患者の視点に立った患者サービスの向上に努める。	ア 福岡市立こども病院 ○ 退院時アンケートやホームページからの患児・家族からのご意見などを踏まえ、接遇・療養環境委員会などにおいて利便性や院内環境の整備を推進し、関係部署とも協議をしながら、より快適な療養環境を提供する。 ○ ボランティアの受入体制強化を図り、患児・家族のニーズに応じた活動を実施するとともに、引き続き感染や安全面等に関するボランティア研修を開催するなど、ボランティアとの共働に向けさらなる活動支援・連携強化を図る。 ○ 患児家族滞在施設（ふくおかハウス）について、患児家族が安心して滞在できるよう「公益法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」の円滑な運営に協力する。 ○ 平成28年度から試行開始した、ホームページからの再診予約システムについて、更なる対象診療科（現在4科）の拡大や、24時間対応を図るなどの見直しを行い、患者の利便性向上を図る。 ○ 平成28年度から開始した、タブレットを活用した患者説明ツールについて、入院時に限らず、様々な場面で活用し、分かりやすい情報提供と待ち時間の質の向上に努める。 ○ 現在、指定を受けている自立支援医療の担当医療分野を拡大し、育成医療が支給される範囲を広げて患者の窓口負担の軽減を図る。 ○ MSW（医療ソーシャルワーカー）を増員し、児童虐待が疑われる患者が受診した際における、児童相談所などの地域の関係機関との連携や、保護者への対応力を強化する。 ○ 外国人患者への的確に対応できるよう、「外国人支援通訳サポーター登録制度（仮称）」を創設し、少数言語の通訳サービスを開始する。

中期目標（内容）	選ばれる病院であり続けるため、患者のニーズを的確に捉えながら院内環境の整備を進めるほか、ボランティアとの連携を図ることなどにより、市民・患者の視点に立った患者サービスの向上に努めること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 退院時アンケートの意見等をふまえ、患者の利便性の向上のため、屋外案内看板の改良や病室内シャワー室の環境整備などに取り組んだ。また、売店弁当の品ぞろえについて、利便施設運営者と交渉し、健康にも配慮したマクロビ弁当を新規導入する等、商品の拡充を行った。 さらに、経口補水療法を行うに当たり、必要となる経口補水液に関して、売店閉店時でも救急等での来院者が入手できるよう、新たに屋外に専用自動販売機の導入を行った。 ○ ボランティアについては、活動者を対象として、院内感染対策や子どもたちとの接し方に関する講座を開催したほか、活動実績の多い方を対象に新たに表彰制度を設けるなど受入体制の強化を図り、受入件数は年間400件を超えた。外来や病棟における多彩な活動により、患者・患者家族等に対するきめ細やかな支援が行われた。 ○ 患児家族滞在施設（ふくおかハウス）については、施設の円滑な運営ができるよう協力を行い、80.2%という高い利用率となった。 ○ ホームページからの再診予約システムについて、前年度に引き続き対象診療科の拡大を行った。（4診療科→14診療科） ○ 患者説明用動画をタブレットの他に、大型モニターや卓上DVDプレイヤーなども使用して視聴できる環境を整備し、患者の待ち時間におけるサービスの向上と業務の効率化を推進した。 ○ 自立支援医療の指定医を増員し、育成医療が支給される範囲を広げ、患者の窓口負担の軽減を図った。 ○ 虐待発見時における、院内連携の促進による児童の安全確保のため、児童虐待対策委員会の下にCPT（Child Protection Team）を設置した（対応症例14件）。 ○ 「外国人支援通訳サポーター登録制度」を創設し、通訳サービス等の支援を行う5人のサポーターの参加を得た。	2	3	4	○ 退院時アンケートの意見等を踏まえ、売店の弁当の品揃えの拡充や救急時に経口補水液が入手できるよう屋外に自販機を新設したほか、患児家族滞在施設（ふくおかハウス）の運営に当たっては高い利用率を維持するなど、来院者の利便性向上のため、ハード・ソフト両面で計画どおり院内環境の整備を進めた。 ○ 特に、ホームページからの再診予約システムの対象診療科の拡大や、退院時アンケートの高い水準を維持した目標を達成したことなどを積極的に評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画																
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成32年度 目標値</th></tr><tr><td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td><td>88.0</td><td>88.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容等	指標	福岡市立こども病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	88.0	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成29年度 目標値</th></tr><tr><td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td><td>88.0</td><td>88.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容等	指標	福岡市立こども病院		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	88.0
指標		福岡市立こども病院															
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値															
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	88.0															
指標	福岡市立こども病院																
	平成27年度 実績値	平成29年度 目標値															
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	88.0															

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価									
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
【実績値】 <table><tr><td rowspan="2">指標</td><td colspan="2">福岡市立こども病院</td></tr><tr><td>平成28年度 実績値</td><td>平成29年度 実績値</td></tr><tr><td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td><td>88.4</td><td>88.8</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容等	指標	福岡市立こども病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.4	88.8				
指標		福岡市立こども病院										
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値										
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.4	88.8										

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上
----------	---

中期計画	年度計画																
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し, 患者のニーズを的確に捉えた上で, より一層の患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう, 社会的, 経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め, より快適な療養環境を提供する。 ④ ボランティアとの連携などにより, 市民・患者の視点に立った患者サービスの向上に努める。	イ 福岡市民病院 ○ 職員の接遇及び療養環境等に関する患者満足度調査や外来待ち時間調査等を実施し, 患者のニーズを的確に捉えた上で, より一層のサービス向上を図る。 ○ 患者またはその家族等からの医療・福祉に関する相談などについて, 患者サポート相談窓口を中心に適切に対応する。 ○ 入院ベッドの更新を計画的に行うとともに, 病室の天井・壁・床面の段階的な改修等, 療養環境の整備に努める。 ○ 大学サークル・市民団体等と交渉し, 定期的に院内コンサート等を実施するとともに, 患者の手助けなどを行う院内ボランティア（現在2人）を幅広く募集するなど, 登録者の拡大を図る。																
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成32年度 目標値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>90.1</td><td>88.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇, 療養環境, 食事内容等	指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.1	88.0	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成29年度 目標値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>90.1</td><td>88.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇, 療養環境, 食事内容等	指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.1	88.0
指標		福岡市民病院															
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値															
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.1	88.0															
指標	福岡市民病院																
	平成27年度 実績値	平成29年度 目標値															
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.1	88.0															

中期目標（内容）	患者のニーズを的確に捉えるとともに、選ばれる病院であり続けるため、患者サービスの向上に努めること。 また、より快適な療養環境を提供するため、院内環境の整備を進めるなど、患者の利便性の向上を図ること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価									
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
イ 福岡市民病院 ○ 外来待ち時間調査の結果を踏まえ、会計ピーク時には、会計担当者に加え、計算担当者の増員をすることにより、待ち時間の短縮に努めた。（前年度平均8分→7分） また、入院患者に対して実施する患者満足度調査については、平均評価点数が目標値を上回った。 ○ 患者サポート相談窓口に、看護師及び医療メディエーター（医療対話仲介者）研修を修了した事務職員を常時配置し、患者又はその家族等からの医療・福祉に関する相談に応じるとともに、苦情等についても、その内容に応じて、所管部署とともに解決に取り組む等、適切な対応を行った。 ○ 平成28年度に引き続き、入院ベッド40台の更新を行うとともに、患者家族控室（手術待合室）及び病棟特別室の全面改修、一般病室の天井及び床面の一部改修を行う等、療養環境の整備・充実を図った。 ○ 大学のコーラスグループ等の協力により、院内コンサートを定期的に実施したほか、毎月1回、ボランティアの協力を得て、花の植替え等花壇の手入れ作業を行った。 ○ 患者の手助けなどを行う院内ボランティアの登録者の拡大には至らなかったが、現体制（登録者2人）において、外来での患者のお世話や入院患者の話し相手、認知症患者の見守り等、患者とのふれあいを大切にした活動により、患者視点のきめ細やかな患者サービスの提供が図られた。	2	3	3	○ 会計ピーク時の計算担当者の増員により待ち時間を短縮したほか、病室の天井床の改修やベッドの更新など、計画的に院内の療養環境整備の充実が図られていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。								
【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>90.6</td><td>90.1</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容等					指標	福岡市民病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.6	90.1
指標	福岡市民病院											
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値										
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.6	90.1										

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (2) 情報発信
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (2) 情報発信 ホームページや広報誌の発行等を通じて、病院のもつ機能や治療実績等、積極的な情報発信に取り組むとともに、安心して受診できるように、市民に開かれた病院づくりに努める。	○ 診療内容・医療サービスや、「病院指標」に示される治療実績など、さまざまな情報を整理し、診療情報誌・季刊誌・各科診療案内・ホームページ等を利用して、わかりやすい情報発信に取り組むとともに、患者が安心して受診できるよう、市民に開かれた病院づくりに努める。 ○ こども病院について、参加・体験型イベント「こども病院フェスタ」の開催を通じて、更なる認知度の向上を図る。

中期目標（内容）	ホームページや広報誌等により，病院の役割や医療内容等を積極的に情報発信するなど，市民に開かれた病院づくりに努めること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 市民や医療関係者等に対して最新の情報を発信するため，ホームページにより，トピックスや研修会の案内，広報誌の内容など随時最新の情報を提供するとともに，「病院指標」を公開し，一般の人に分かり易い解説に努めた。 ○ こども病院においては，前年度に引き続き，参加・体験型の「こども病院フェスタ」を開催した。 会場を外来フロア等に拡充し，体験ブースを増やすなど規模を拡大するとともに，積極的なPRに努めた結果，来場者数は前年度の600人余から大幅に増加し，2,000人以上の来場者を得ることができた。 ○ 福岡市民病院においては，「病院指標」に示される治療実績（DPCの施設基準を満たす7項目）について，日本病院会及び当院独自で設定した指標（31項目）を加えた内容に更新するなど，患者が安心して受診できる市民に開かれた病院づくりに努めた。	1	3	4	○ ホームページ等を活用し，病院が持つ機能等について，分かりやすい情報発信に取り組んだほか，こども病院フェスタの規模・内容を拡充したことにより，多数の市民等に対し認知度を向上させた。 ○ 特に福岡市民病院では，29年度から多数の病院指標を独自設定し，開示する情報の充実に努めていることを積極的に評価し，年度計画を上回って実施していると判断されるため，「評価4」とする。

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ① 魅力的な職場づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。 ② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	ア 福岡市立こども病院 ○ 看護師については、意欲ある人材を確保するため、看護学生等への看護体験や病院見学を通じて、積極的に病院のPRを行うとともに、教育プログラムに基づき、専従教育担当職員による新人看護職員等への研修を重点的に実施するなど、職員の資質向上に努める。 ○ 年休の取得率向上や時間外勤務の縮減など職員のワーク・ライフ・バランスの推進に取り組み、魅力的な職場づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。 ○ 新規採用職員を対象とした情報セキュリティや人権、接遇などの研修の開催を始め、各種院内研修について、外部講師の活用など内容の充実を図るとともに、開催の周知及び受講促進に努める。 ○ スタッフの専門性や医療技術の向上を図るため、積極的な職員の資格取得を奨励するとともに、看護師については、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促し、有資格者の拡大を図る。 ○ 医師の事務負担軽減の更なる推進のため、医師事務作業補助者の業務体制を見直す。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医師や看護師を始め、優れた人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 意欲ある人材を確保するため、看護学生等を対象とした「インターンシップ&病院説明会」を6回開催し、185人を受け入れる（前年度：6回開催172人）とともに、看護学実習について11校13課程450人を受け入れる（前年度：10校11課程348人）など、当院に就職を希望する学生の確保に努めた。 また、専従教育担当職員が中心となり、新人看護職員、新任期看護職員等を対象とした研修を計画的に開催し、看護職員の資質向上に努めた。さらに、他施設の小児医療に関わる新人看護職員を対象として「小児看護研修」を2回開催し、延べ52人の参加（前年度：1回開催25人）を得るなど、小児専門病院としての役割遂行に努めた。 ○ 時間外勤務の縮減を図るため、各種委員会等の時間内での実施及び実施時間の縮減について院内で取組を徹底した。 ○ 看護師について、認定看護師教育課程（手術看護分野）や認定看護管理者教育課程の受講について支援を行った。 【受講修了】 ・認定看護管理者教育課程サードレベル 1人 ・手術看護認定看護師教育課程 1人 ・小児看護専門看護師教育課程（修士課程）1人 【資格取得】 ・小児救急看護認定看護師 1人 ○ 医師の更なる負担軽減の推進のため、4月に「医師支援事務室」を設置するとともに、医師事務作業補助者を従来の12人から4人増員して16人体制とし、施設基準で最上位となる15対1を取得する等、支援体制の強化を図った。 ○ 病棟クラークを新たに2人配置し、病棟看護師の事務作業の負担軽減を図った。	2	4	4	○ 「インターンシップ&病院説明会」の開催（6回）や看護学実習の受入れなどの人材確保に向けた取組、また専門性向上に向けた看護職員の計画的研修及び資格取得に対する支援、医師及び看護師の支援体制の強化など、病院スタッフの確保及び専門性や医療の質の向上に向けた取組が多方面で実施されていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修
----------	--

中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ① 魅力的な職場づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。 ② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	イ 福岡市民病院 ○ 医師，看護師を始め職種毎の定数管理を確実にを行い，職員の適正数の確保に努める。 ○ ワーク・ライフ・バランスの推進に継続的に取り組み，年休の取得率向上や時間外勤務の縮減に努め，職員が働きやすい職場環境づくりを推進し，優れた人材の確保に努める。 ○ 新規採用職員を対象とした情報セキュリティや人権，接遇研修のほか，全職員を対象とした医療安全管理体制確保，院内感染対策，保険診療に関する研修等を実施するなど，院内研修の充実を図るとともに，外部の専門研修等も活用しながら職員の資質向上を図る。 ○ 看護部においては，認定看護師等資格取得支援制度を活用した積極的な資格取得を奨励し，専門職としての知識・技術の向上を図る。また，看護部以外の部門においても，専門職としての知識・技術の向上を図るため，資格取得支援制度の充実に努める。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医師や看護師を始め、優れた人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 看護師について7対1看護基準を維持するとともに、その他職種についても、職員の育児休業等による欠員に対して、代替職員の採用を適宜行う等、職員の適正数の確保に努めた。また、医師については、救急専門医及び消化器専門医を増員し、救急医療体制のさらなる充実を図った。 ○ 院内のワーク・ライフ・バランス推進委員会において、平成28年度に引き続き、年休の取得率向上に取り組むとともに、制度利用者に加え、所属長を対象とした育児支援制度説明会を開催するなど、職員が長く働き続けられる職場環境づくりを推進した。 ○ 医師業務については、医師事務作業補助者の増員及び業務の見直しや当直翌日の職務専念免除制度の利用推進により、負担軽減を図った。また、「医師の働き方改革」の一環として、他職種へのタスク・シフティング(業務移管)の推進、勤務時間外における病状説明等の原則廃止、当直医師の業務軽減を目的とした、救急科医師シフト制導入の検討など、さらなる負担軽減及び働きやすい職場環境づくりの推進に努めた。 ○ 新規採用職員を対象として、情報セキュリティ、人権及び接遇について研修を実施するとともに、全職員を対象として、医療安全管理体制確保、院内感染対策、保険診療に係る研修及びBLS研修等の教育研修を実施するなど、院内研修の充実を図った。 ○ 認定看護師等資格取得支援制度の利用を促進し、専門職としての知識・技術の向上を図るとともに、特定行為研修の受講についても支援制度を整備し、2人(呼吸器関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連)の受講が決定した。 【資格取得者】 ・認定看護管理者サードレベル 1人 【教育課程修了者】 ・認定看護師 - 救急看護 1人 - 認知症看護 1人 ・専門看護師 - がん看護 1人 ※当該支援制度による資格取得者 - 認定看護師 14人 - 認定看護管理者サードレベル 2人	2	4	4	○ 医師、看護師、その他の職種や新規採用職員を含め、適正数の確保と働きやすい職場環境づくりに向けた様々な取組を進めた結果、医師の増員により救急医療体制が更に充実されたことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
----------	---

中期計画	年度計画																						
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させ、安全・安心な医療を提供する。 【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成32年度 目標値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>5,803</td><td>9,100</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相談件数 (件)</td><td>476</td><td>650</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	薬剤管理指導件数 (件)	5,803	9,100	栄養食事指導・相談件数 (件)	476	650	ア 福岡市立こども病院 ○ 日本小児総合医療施設協議会において策定中である、小児専門病院における臨床評価指標事業に参加・協力するとともに、他病院との比較分析等を実施し、小児医療の質の向上に努める。 ○ 感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携により、院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ○ クリニカルパスの充実により、ケアの標準化、均質化を図り、医療の質の向上に努めるとともに、その活用による治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ○ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させるとともに、多職種による栄養サポートチーム（NST）により栄養管理の充実を図り、安全・安心な医療を提供する。 ○ 入院中の患児の健やかな発達をサポートするため、歯科衛生士・保育士・管理栄養士による「歯育・保育・食育教室」を開催するとともに、1型糖尿病の患児に対して食事療養を支援するための「糖尿病教室」を開催する。 【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成29年度 目標値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>5,803</td><td>8,950</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相談件数 (件)</td><td>476</td><td>650</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値	薬剤管理指導件数 (件)	5,803	8,950	栄養食事指導・相談件数 (件)	476	650
指標		福岡市立こども病院																					
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値																					
薬剤管理指導件数 (件)	5,803	9,100																					
栄養食事指導・相談件数 (件)	476	650																					
指標	福岡市立こども病院																						
	平成27年度 実績値	平成29年度 目標値																					
薬剤管理指導件数 (件)	5,803	8,950																					
栄養食事指導・相談件数 (件)	476	650																					

中期目標（内容）	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価												
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
ア 福岡市立こども病院 ○ 前年度に引き続き、医療の質の向上のため、全国のこども病院と連携して、小児医療特有の「臨床指標」の策定に取り組んだ。 ○ 専従の感染管理認定看護師を配置した感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携を推進するとともに、地域その他医療機関との合同カンファレンスの開催や相互サーベイランスの実施など、感染防止対策の強化を図った。また、医療安全管理室による医療安全院内研修を実施するとともに、安全管理委員会において情報収集及び改善策を策定し、医療安全対策の徹底を図った。 ○ 重症患者の多いPICUに専任の薬剤師を配置して、注射薬の監査や中心静脈栄養の輸液作製等を実施し、安全・感染リスクの低減に取り組んだ。 ○ クリニカルパス委員会を中心とした普及活動により、クリニカルパスの数は31種類（40疾患）と、平成28年度より9種類（11疾患）増加し、ケアの標準化、均質化による医療の質の向上に寄与した。 ○ 薬剤師による薬剤管理指導について、退院後の薬剤服用に関する指導を積極的に実施した。しかし、集中治療系への配置などによるマンパワー不足等の影響により、件数は目標値を下回った。 また、栄養食事指導について、特に、食物アレルギー患者への指導件数は前年度比で2倍を超え、患者が安全な食事治療に取り組めるようサポートを行った。 ○ 「歯育・保育・食育教室」を5回開催（患児と保護者延べ30組参加）したほか、「糖尿病教室」を開催（患児と保護者28組参加）し、患児の健やかな発達をサポートする活動を継続的に取り組んだ。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 （件）</td><td>8,931</td><td>7,592</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相談件数（件）</td><td>698</td><td>1,042</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	薬剤管理指導件数 （件）	8,931	7,592	栄養食事指導・相談件数（件）	698	1,042	2	3	3	○ 信頼される医療の実践に向けて、小児医療の質の向上のための「臨床指標」の策定、感染防止対策の強化、安全・感染リスクの低減に向けた取組など、患者を中心とした安全・安心な医療を提供するために、様々な取組を計画通り実践していることから、一部の指標が目標値を下回ってはいるものの総合的に勘案し、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指標		福岡市立こども病院													
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値													
薬剤管理指導件数 （件）	8,931	7,592													
栄養食事指導・相談件数（件）	698	1,042													

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させ、安全・安心な医療を提供する。	イ 福岡市民病院 ○ 院内感染対策委員会及び感染制御チーム(ICT)の連携により、院内感染防止対策を徹底するとともに、他施設との情報交換等を通じ更なる改善を図る。また、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ○ クリニカルパスの充実により、ケアの標準化・均質化並びに医療の質の向上に努めるとともに、患者用パスの病院ホームページへの公開による治療内容の可視化や、インフォームド・コンセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ○ 薬剤師による処方監査・調剤監査や 持参薬の監査、病棟の薬品管理、服薬指導等を行い、引き続き安全管理体制の徹底に努める。また、管理栄養士による栄養食事指導等を充実させるとともに、栄養サポートチーム(NST)により栄養管理の充実を図り、安全・安心な医療を提供する ○ 日本病院会主催の「QIプロジェクト」等に引き続き参加し、臨床指標についてベンチマークによる比較評価を行い、医療の質の向上を図る。

中期目標(内容)	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。
----------	--

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 感染症専門医を中心に、院内感染対策委員会及び感染制御チームによる環境ラウンド(週1回実施)等の院内感染防止対策を徹底するとともに、他病院との共同カンファレンス・相互ラウンド等を通じ、耐性菌検出状況や抗菌薬適正使用への取り組みなど感染対策に関する情報交換及び第三者的視点からの相互評価を行った(共同カンファレンス4回・外部参加者数128人)。 医療安全に関しては、M&Mカンファレンス(Mortality & Morbidity: 死亡例・重症例・見逃し症例などを検討し、再発防止のためにシステムや環境の改善を行うカンファレンス)、ハリーコールの振り返りの実施や、毎週月曜日の「医療安全報告会」(45回開催)による各部署への迅速な情報共有等を通じて、病院全体での医療安全対策に対する意識向上を図った。また、平成29年度より入院患者のインシデントレポート(29年度685件)をDPCデータ(重症度、医療看護必要度等)と組み合わせ、インシデント発生時の時間帯別・曜日別の傾向や特徴を分析する取り組みを開始した。 ○ クリニカルパス委員会を中心に、使用頻度の低いクリニカルパスの見直しや整理(28年度170種類→29年度90種類)を実施するとともに、電子カルテのバージョンアップにより操作性の改善やパス経過表との連携強化等を実施し、適用率向上に努めた。 ○ 薬剤師による処方監査・調剤監査や持参薬の監査、病棟の薬品管理を通じて安全管理体制の徹底に努め、薬剤管理指導件数は目標値を大きく上回った。投薬事故防止活動としてのプレアボイド報告件数も前年度から増加した(28年度347件→29年度416件)。 管理栄養士による栄養食事指導件数については、診療報酬改定に基づき1件当たりの指導時間を増加させるなど内容の充実を図った結果、目標値には届かなかったが、栄養サポートチーム(NST)加算の算定件数は前年度を大きく上回った(28年度 357件→29年度504件)。	2	4	4	○ 信頼される医療の実践に向け、感染防止対策の徹底や他病院との情報交換・相互評価、クリニカルパスの見直しや整理、薬剤師による投薬事故防止活動など、様々な取組を行うとともに、引き続き参加した「QIプロジェクト」においては、好事例として取組実績が認められたことなどから、一部の指標が目標値を下回ってはいるものの、総合的に勘案し、年度評価を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画																						
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成32年度 目標値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>9, 713</td><td>9, 400</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相 談件数 (件)</td><td>1, 220</td><td>1, 200</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	薬剤管理指導件数 (件)	9, 713	9, 400	栄養食事指導・相 談件数 (件)	1, 220	1, 200	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成29年度 目標値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>9, 713</td><td>9, 350</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相 談件数 (件)</td><td>1, 220</td><td>1, 200</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値	薬剤管理指導件数 (件)	9, 713	9, 350	栄養食事指導・相 談件数 (件)	1, 220	1, 200
指標		福岡市民病院																					
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値																					
薬剤管理指導件数 (件)	9, 713	9, 400																					
栄養食事指導・相 談件数 (件)	1, 220	1, 200																					
指標	福岡市民病院																						
	平成27年度 実績値	平成29年度 目標値																					
薬剤管理指導件数 (件)	9, 713	9, 350																					
栄養食事指導・相 談件数 (件)	1, 220	1, 200																					

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価												
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
○ 日本病院会主催の「Q Iプロジェクト」等に引き続き参画し、転倒・転落発生率，褥瘡発生率等の臨床指標について，全国平均値との比較評価及び分析を行い，医療の質の向上を図った。 また，参画病院の中から福岡市民病院が「逆紹介率向上」の好事例として選出され，3月に日本病院会にて開催された「Q Iプロジェクト2017フィードバック説明会」において，改善への具体的な取り組み内容に関する事例発表を行った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>9,732</td><td>10,212</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相談件数 (件)</td><td>1,140</td><td>1,070</td></tr></table> ※ 栄養食事指導については，平成 28 年度診療報酬改定にて 1 件あたりの指導時間が「1 回 15 分以上」から，「初回 30 分以上・2 回目以降 20 分以上」に改定された。	指標	福岡市民病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	薬剤管理指導件数 (件)	9,732	10,212	栄養食事指導・相談件数 (件)	1,140	1,070				
指標		福岡市民病院													
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値													
薬剤管理指導件数 (件)	9,732	10,212													
栄養食事指導・相談件数 (件)	1,140	1,070													

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実
中期計画	年度計画
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実 ① 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ② 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。	○ 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ○ 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。

中期目標（内容）	地方独立行政法人制度の特長を活かし、各病院が自らの特性や実情を踏まえ、より機動的に業務改善ができるよう、各病院において病院長がリーダーシップを発揮し、自律性を発揮できる運営管理体制の充実を図ること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 市立病院機構の運営を的確に行うため、理事会を計9回開催し、理事会の決定方針に沿った運営を行った。 ○ 両病院ともに、病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者のニーズに効果的な対応ができるよう、毎週開催する執行部会議による迅速な協議や、診療科長等情報連絡協議会を通じて情報の共有化を図り、病院の実態に即した機動性の高い病院経営に取り組んだ。 また、運営本部と両病院合同による経営会議及び運営調整会議を毎月開催し、経営状況の把握や年度計画の進捗状況を管理し、機構全体的な視点から、業務執行の適確性の検証はもとより、経済性・効率性の追及を徹底し、市立病院として適切な独法運営に取り組んだ。 ○ こども病院においては、若手から中堅職員による組織横断的な戦略的分析チーム（S a T）を立ち上げ、病院運営や経営に関する課題への提案を行い、実施に向けて活動を行った。	1	3	3	○ 市立病院機構では、外部理事等の助言に基づく理事会の決定に沿った運営が行われるとともに、両病院においても執行部会議等を毎週開催し機動性の高い病院経営が行われているなど、自律性・機動性の高い運営管理体制による病院運営が実践できていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 事務部門の機能強化
----------	---

中期計画	年度計画
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 2 事務部門等の専門性の向上 ① 経営状況や医療を取り巻く情報を整理・分析する能力など、事務部門に求められる専門性を更に高めていくため、研修の充実を図るとともに、スキルアップを支援するための制度の導入を検討する。 ② 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、情報共有の徹底やOJTの充実を図るとともに、職員のキャリアプランを踏まえた人事異動を通して、事務部門の更なる機能強化に努める。	○ 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、事務のマニュアル化や業務の可視化等に努め、情報共有や業務の効率化を推進する。 ○ 事務部門に求められる専門性を更に高めていくため、研修の充実を図るとともに、業務に必要な資格の取得など、スキルアップを支援するための制度の導入について検討する。 ○ テーマごとの職場内研修等の実施により、効果的なOJT（On the Job Training）に繋げる。 ○ 職員のキャリアプランを踏まえた適材適所の人事配置に努める。

中期目標（内容）	各病院の経営支援を的確に行うことができる人材や、医療を巡る環境変化に柔軟に対応できる人材を育成するため、その専門的知識やスキルを習得するための研修を計画的に実施するとともに、市立病院としてのノウハウを確実に蓄積し、事務部門の更なる機能強化に努めること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、運営本部及び両病院の担当レベルで適宜ワーキング会議等を開催し、情報共有を推進するとともに、課題解決に向けた協議・必要な見直しを行うなど、病院運営の改善はもとより、事務の簡素化・効率化に努めた。 ○ マネジメント能力向上等を目的として、昇任者を対象とした監督者研修を実施した。 こども病院においては、事務職員を対象に、業務研修をはじめ倫理研修や人権研修等を実施し、市民病院においても、全国地方独立行政法人病院協議会主催の会計セミナーや全国自治体病院協議会主催のDPCデータ分析実務研修会等の研修に事務職員を参加させ、事務処理能力の向上を図った。 また、事務職及び医療技術職について、業務に係るスキルアップのための資格取得支援制度の構築について検討を進めた。 ○ 事務部門全体の機能強化及び職員のキャリアアップを踏まえ、病院間における人事異動を実施した。	1	3	3	○ 運営本部と両病院の事務部門が揃って、病院運営の改善、事務の簡素化・効率化を検討する場を設けるとともに、監督者研修の実施、事務職員対象の研修実施、資格取得支援制度の構築の検討を進めるなど、事務部門の専門性の向上に向けた取組を着実にを行っていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 働きがいのある職場環境づくり
中期計画	年度計画
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 3 働きがいのある職場環境づくり ① 職員ニーズ等を踏まえ、福利厚生の更なる充実に取り組むとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、育児・介護などを支援する制度の利用促進や組織全体の意識改革を図り、職員が働きやすい職場環境の整備に努める。 ② 職員のモチベーションの維持・向上を図るため、人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、社会情勢の変化等に適合しつつ、職員の意欲を引き出すよう、人事・給与制度について、適宜、見直しを行う。	○ 職員が安心して働き続けることができるよう、特に就学前児童を持つ職員の労働環境向上の観点から、院内保育所において夜間保育を試行実施するなど、福利厚生 of 更なる充実に取り組む。 ○ ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、制度の周知徹底はもとより、研修や会議等を通じて所属長を始め職員の意識改革を図り、育児・介護などを支援する制度の利用促進や年次有給休暇の取得率の向上、時間外勤務の縮減等に取り組む。 ○ 社会情勢の変化等を踏まえた人事・給与制度の改善に取り組む。 ○ 平成27年度より医師以外の管理職を対象とした目標管理制度を試行しており、その効果等を検証しながら、本格実施に向けた検討を進める。 ○ 労働契約法の改正を踏まえ、有期職員の無期労働契約への転換に関する制度の整備を図る。

中期目標（内容）	職員の福利厚生の充実やワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みを行い、職員が働きやすい職場環境の整備に努めること。 また、職員の業績や能力を公正かつ客観的に評価できるように人事評価制度の改善を行い、職員のモチベーションの維持・向上を図ること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 職員が安心して働き続けることができるよう、院内保育所の定員を20人から25人に拡大するとともに、夜間保育を継続実施するなど、福利厚生の充実に取り組んだ。 ○ ワーク・ライフ・バランス推進の観点から、各職場において年休取得率の向上や時間外勤務の縮減に努めた。 また、所属長による適切な労務管理等を推進するため、新たにタイムレコーダーによる出退勤時間の記録を開始した。 ○ 社会情勢の変化等を踏まえた人事・給与制度とするため、国立病院機構の改定状況等を踏まえ、給料表の改定に取り組んだ。 また、看護師や医療技術職に係る救急呼出待機手当について改善を図った。 ○ 医師以外の管理職を対象とする管理職目標管理制度を引き続き試行実施し、将来的には職員の業績や貢献度等を給与に反映できるよう、引き続き本格実施に向けた検討を進めた。 ○ 労働契約法の改正を踏まえ、当機構において有期職員として5年を超えて勤務し、かつ、無期労働契約への転換を申し出た職員について、次の更新時から「無期転換職員」として雇用できるよう制度構築に取り組んだ。	1	3	3	○ 院内保育所の定員拡大及び夜間保育の継続実施、タイムレコーダーによる出退勤時間の記録開始など働きやすい職場環境の整備とともに、管理職対象の管理職目標管理制度の実施や有期職員を「無期転換職員」として雇用できる制度構築など、働きがいのある職場づくりを進めていることなどから、年度計画を順調に実施していると判断できるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 4 法令遵守と公平性・透明性の確保
----------	---

中期計画	年度計画
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 4 法令遵守と公平性・透明性の確保 ① 関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスを徹底するとともに、市立病院として公平性・透明性を確保した適正な病院運営を行う。 ② 個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応する。	○ 各種研修制度の拡充や組織の管理体制等の強化により、関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスを徹底する。 ○ 監事（弁護士、公認会計士）及び会計監査人による監査に加え、業務管理や会計処理等に関する内部監査の実施により、内部統制を適正に維持し、市立病院として適正な病院運営を行う。 ○ 個人情報保護及び情報資産に関しては、福岡市の関係条例等及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応するとともに、研修等を通じて職員の教育を徹底するほか、カルテ等の診療情報に関しては、診療録開示委員会を開催して開示の可否を決定する。

中期目標（内容）	医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、行動規範と倫理に従い、市立病院の運営を担う地方独立行政法人として、公平性・透明性を確保した病院運営を行うこと。 また、個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市個人情報保護条例（平成17年福岡市条例第103号）及び福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）に基づき、適切に対応すること。
-----------------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
○ 監督者研修や各種会議など様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。 ○ 市立病院機構全体の業務の適正性及び効率性の検証等を行うため、監事による業務監査を実施するとともに、会計監査人による監査や福岡市監査事務局による出資団体監査の実施を通じて内部統制を適正に維持し、市立病院として適正な運営を行った。 ○ 個人情報保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例等及び当機構の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応するとともに、研修等を通じて職員の教育を徹底した。また、カルテ等の開示請求に対しては、診療録（カルテ）開示委員会で開示の可否を決定した（こども病院15件、福岡市民病院70件）。	1	3	3	○ 監事及び会計監査人、福岡市監査事務局による監査を通じ内部統制維持に努めるとともに、研修や会議など様々な機会を通じ、服務規律、個人情報保護等につき職員の教育・指導を徹底するなど、市立病院として、公平性・透明性を確保した病院運営に向けた取組を継続して実施していることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、評価3」とする。

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 経営基盤の強化 (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減
----------	--

中期計画	年度計画																												
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 1 経営基盤の強化 (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 財務状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にしたうえで収支改善に取り組み、将来的にも安定した経営を行うことができるよう、更なる経営基盤の強化を図る。 また、市立病院として求められる医療を提供しつつ、より一層の経営の効率化や健全化を進め、運営費負担金の縮減に努める。	ア 福岡市立こども病院 ○ 毎週開催の執行部会議，毎月開催の運営会議において，病院の財務状況を踏まえ，取り組むべき課題を明確にした上で，診療科長等情報連絡協議会等を通じて各部署において情報を共有し，病院全体で増収及び費用削減に取り組む。 ○ 月次決算の実施など経営に関する情報を迅速に把握し，経営状況の分析や他病院との比較分析など，効率的な病院経営を行い，運営費負担金の適正化に努める。																												
【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成32年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>99.8</td><td>102.9</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>101.9</td><td>102.9</td></tr><tr><td>医業収支比率※</td><td>84.0</td><td>85.8</td></tr></table> ※ 平成27年度実績値については，監査法人の指摘により消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更しているため，平成27年度業務実績報告書における実績値とは異なる。	指標	福岡市立こども病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	総収支比率	99.8	102.9	経常収支比率	101.9	102.9	医業収支比率※	84.0	85.8	【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成29年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>99.8</td><td>101.0</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>101.9</td><td>101.0</td></tr><tr><td>医業収支比率※</td><td>84.0</td><td>85.4</td></tr></table> ※ 平成27年度実績値については，監査法人の指摘により消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更しているため，平成27年度業務実績報告書における実績値とは異なる。	指標	福岡市立こども病院		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値	総収支比率	99.8	101.0	経常収支比率	101.9	101.0	医業収支比率※	84.0	85.4
指標		福岡市立こども病院																											
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値																											
総収支比率	99.8	102.9																											
経常収支比率	101.9	102.9																											
医業収支比率※	84.0	85.8																											
指標	福岡市立こども病院																												
	平成27年度 実績値	平成29年度 目標値																											
総収支比率	99.8	101.0																											
経常収支比率	101.9	101.0																											
医業収支比率※	84.0	85.4																											

中期目標（内容）	福岡市立こども病院の移転・開院を踏まえ、将来的にも安定した経営を行うことができるよう経営基盤を強化すること。 また、福岡市の厳しい財政状況を踏まえると、引き続き市立病院機構全体の運営費負担金の縮減に向けた更なる取組みが求められることから、より一層の経営の効率化や健全化を進めること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価															
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど														
ア 福岡市立こども病院 ○ 執行部会議や運営会議を定期的開催し、速報ベースでの月次予算報告等を行うとともに、積極的な増収対策や費用削減と併せて効率的な病院経営について検討を重ね、決定事項等については迅速に職員全体への周知を図った。 【実績値】（単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>102.6</td><td>109.4</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>107.0</td><td>109.4</td></tr><tr><td>医業収支比率※</td><td>91.5 (95.9)</td><td>94.2</td></tr></table> ※ 平成28年度実績値については、監査法人の指摘により消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更しているため、平成28年度業務実績報告書における実績値とは異なる。（（）内は平成28年度業務実績報告書における実績値）	指標	福岡市立こども病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	総収支比率	102.6	109.4	経常収支比率	107.0	109.4	医業収支比率※	91.5 (95.9)	94.2	2	4	4	○ 定例会議等で定期的に増収対策や費用削減の検討を重ね、迅速に職員に決定事項を周知した結果、効率的な病院経営が病院全体に進み、経常収支比率等の経営3指標がいずれも目標値を大きく上回ったことから、年度計画を上回って経営基盤の強化が図られていると判断されるため、「評価4」とする。
指標		福岡市立こども病院																
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値																
総収支比率	102.6	109.4																
経常収支比率	107.0	109.4																
医業収支比率※	91.5 (95.9)	94.2																

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 経営基盤の強化 (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減
----------	--

中期計画	年度計画																												
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 1 経営基盤の強化 (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 財務状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にしたうえで収支改善に取り組み、将来的にも安定した経営を行うことができるよう、更なる経営基盤の強化を図る。 また、市立病院として求められる医療を提供しつつ、より一層の経営の効率化や健全化を進め、運営費負担金の縮減に努める。 【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成32年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>101.3</td><td>103.2</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>106.0</td><td>103.2</td></tr><tr><td>医業収支比率※</td><td>92.1</td><td>94.8</td></tr></table> ※ 平成27年度実績値については、監査法人の指摘により消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更しているため、平成27年度業務実績報告書における実績値とは異なる。	指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	総収支比率	101.3	103.2	経常収支比率	106.0	103.2	医業収支比率※	92.1	94.8	イ 福岡市民病院 ○ 高度救急医療体制を推進し、脳疾患・循環器疾患を中心に重篤な救急患者の受入及び手術件数の増加を図ることで、診療単価の向上並びに収益の確保に努める。 ○ 高度専門医療を提供するうえで必要となる資源投入を行うとともに、経営効率化を念頭に置き、施設基準遵守を担保する範囲内での人員体制の最適化を図る。 【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成27年度 実績値</th><th>平成29年度 目標値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>101.3</td><td>101.1</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>106.0</td><td>101.1</td></tr><tr><td>医業収支比率※</td><td>92.1</td><td>92.0</td></tr></table> ※ 平成27年度実績値については、監査法人の指摘により消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更しているため、平成27年度業務実績報告書における実績値とは異なる。	指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値	総収支比率	101.3	101.1	経常収支比率	106.0	101.1	医業収支比率※	92.1	92.0
指標		福岡市民病院																											
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値																											
総収支比率	101.3	103.2																											
経常収支比率	106.0	103.2																											
医業収支比率※	92.1	94.8																											
指標	福岡市民病院																												
	平成27年度 実績値	平成29年度 目標値																											
総収支比率	101.3	101.1																											
経常収支比率	106.0	101.1																											
医業収支比率※	92.1	92.0																											

中期目標（内容）	福岡市立こども病院の移転・開院を踏まえ、将来的にも安定した経営を行うことができるよう経営基盤を強化すること。 また、福岡市の厳しい財政状況を踏まえると、引き続き市立病院機構全体の運営費負担金の縮減に向けた更なる取組みが求められることから、より一層の経営の効率化や健全化を進めること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価															
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど														
イ 福岡市民病院 ○ 高度救急医療体制の推進に当たり、救急専門医・消化器専門医の増員等，診療体制の充実を図ったことで，救急搬送件数及び手術件数が前年と比較して大幅に増加し，病床利用率も93.0％と目標値（90.0％）を大きく上回った結果，入院収益の確保が図られ，運営費負担金を約2億円縮減した計画の中で，経常収支比率について目標値を上回ることができた。 ○ 脳血管手術に用いる顕微鏡・ナビゲーションシステムの更新及び循環器内科のアブレーション（経皮的心筋焼灼術）機器を新規導入するなど，高度専門医療を提供するうえで必要となる資源投入を行うとともに，経営効率化を念頭に置き，施設基準遵守を担保する範囲内での人員体制の最適化を図った。 【実績値】（単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr><tr><td>総収支比率</td><td>100.0</td><td>102.4</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>100.1</td><td>102.4</td></tr><tr><td>医業収支比率※</td><td>88.3 (91.2)</td><td>93.4</td></tr></table> ※ 平成28年度実績値については，監査法人の指摘により消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更しているため，平成28年度業務実績報告書における実績値とは異なる。（（ ）内は平成28年度業務実績報告書における実績値）	指標	福岡市民病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	総収支比率	100.0	102.4	経常収支比率	100.1	102.4	医業収支比率※	88.3 (91.2)	93.4	2	4	4	○ 高度救急医療体制の充実を図ったことにより，救急患者搬送件数及び手術件数が目標値を上回ったほか，高度専門医療を提供する上で必要となる資源を投入したことにより，人員体制の最適化が図られるなど，経営基盤の強化が図られた。 ○ その結果，数値目標を設定した3項目のすべての指標を達成していることを積極的に評価し，年度計画を上回って実施していると判断されるため，「評価4」とする。
指標		福岡市民病院																
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値																
総収支比率	100.0	102.4																
経常収支比率	100.1	102.4																
医業収支比率※	88.3 (91.2)	93.4																

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 経営基盤の強化 (2) 投資財源の確保
-----------------	--

中期計画	年度計画
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 1 経営基盤の強化 (2) 投資財源の確保 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。	独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。

中期目標（内容）	施設整備や高額医療機器の更新など、今後の投資計画を踏まえながら、自己財源の確保に努めること。
----------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 自己財源の確保対策として、収支改善による利益の確保とともに、複数の金融機関を対象に定期預金の利率の入札を継続して実施し、積立金運用益の確保を図った。 ○ 価格交渉の徹底等により必要な医療機器を確保しつつ費用の抑制を図るなど、効率的に予算を執行し、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努めた。	1	3	3	○ 経常収益において入院単価や患者数の増などにより収支が改善され、利益が確保されており、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保が認められることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (1) 収益確保
中期計画	年度計画
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 (1) 収益確保 ① 診療体制の充実等による医療の高度化に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。 ② 診療報酬改定等の医療情勢の変化に迅速に対応して適切な施設基準の取得を行い、収入の確保に努める。 ③ 診療報酬請求に係るチェック体制を強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努める。	ア 福岡市立こども病院 ○ 先天性心臓病患者の増加等を踏まえ、HCUの人員体制の整備等、重症患者への対応強化に向けた取り組みを行うとともに、稼働率の向上に努める。 ○ 平成28年度に増床したNICU(12床→18床)について、GCUや他の関連部門との連携を深め、効率的・効果的な運用を行う。 ○ 高額医療機器の稼働調査等を行い、適正な稼働への取り組みを行う。 ○ 医師の異動や増員等を踏まえ、手術や処置等について適時適切な施設基準の取得に努める。 ○ レセプトチェックシステムの活用や保険診療検討ワーキングチームの活動等により、査定減の内容分析や対策を行うとともに、医師との情報共有及び連携強化によって診療報酬請求の精度向上を図る。 ○ MSWによる患者相談の充実等により、医療費の未収金発生防止に努めるとともに、電話、文書による督促や個別相談、必要に応じて少額訴訟の活用等により、未収金の確実な回収を図る。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的な収益の確保に努めること。 また、医療費の未収金発生の防止や確実な回収に努めること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ HCUについては、先天性心臓病患者の増加等を踏まえ、看護師を増員するとともに、専任の循環器医師を配置して先天性心臓病に対する術前術後管理を効率的・効果的に行うための体制整備を実施し、段階的に病床稼働へ向けた取り組みを進めた結果、病床利用率は72.6%（平成28年度：68.3%）となった。 ○ 平成28年度に病床再編により、6床を増床したNICUについて、先天性心疾患や双子の超低出生体重児等の重症患者の円滑な受入に取組んだ結果、新生児集中治療室管理料及び手術における新生児加算の算定患者の増加等による増収に繋がった。 ○ 高額医療機器における稼働率の実情を調査するとともに、効率的な運用が図られるよう、適宜、予約枠の空き状況等モニタリングを行いながら、機器を最大限有効活用できるよう取り組んだ。 ○ リハビリテーション科の新設により、運動器リハビリテーション料と呼吸器リハビリテーション料の初期加算の施設基準を取得した。 ○ 医師支援体制の強化を図るため、医師事務作業補助者を4人増員し、最上位施設基準を取得した。 ○ 保険診療検討ワーキングチームを中心に多職種による査定対策に取り組み、一次査定率を0.09%にまで抑制した。 ○ 長期滞納者への法的措置として簡易裁判所の支払督促を3件実施した。 ○ 効率的な病床管理による病床利用率の向上や、手術件数の増加により、入院収益は78億2,800万円余となり、前年度より2億500万円余の増となった。	2	4	4	○ 先天性心疾患に対応できるよう、看護師の増員や専任循環器医師の配置による体制を整備した結果、病床利用率が向上し、増収につながった。 ○ また、重症患者の円滑な受入れ、高額医療機器稼働率向上、施設基準の取得、未収金の確実な回収などの取組により、収益確保に関する実績値のすべてが年度目標値を大きく超えていることから、年度計画を上回っていると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】《再掲》			【目標値】《再掲》		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	96,877	99,400	1人1日当たり 入院単価（円）	96,877	99,100
1人1日当たり 外来単価（円）	12,458	11,700	1人1日当たり 外来単価（円）	12,458	11,700
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	184.4 (78.0)	207.8 (86.9)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	184.4 (78.0)	203.0 (84.9)
新規入院患者数（人）	6,038	6,200	新規入院患者数（人）	6,038	6,130
平均在院日数（日）	10.2	11.2	平均在院日数（日）	10.2	11.0
1日当たり 外来患者数（人）	288.9	300.0	1日当たり 外来患者数（人）	288.9	300.0
手術件数（件）	2,447	2,650	手術件数（件）	2,447	2,620
救急搬送件数（件）	1,028	1,050	救急搬送件数（件）	1,028	1,030

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価																														
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
【実績値】《再掲》																																	
<table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>101,587</td><td>101,114</td></tr><tr><td>1人1日当たり 外来単価（円）</td><td>12,378</td><td>12,756</td></tr><tr><td>1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））</td><td>205.6 (86.0)</td><td>212.1 (88.7)</td></tr><tr><td>新規入院患者数（人）</td><td>6,429</td><td>6,908</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>10.7</td><td>10.2</td></tr><tr><td>1日当たり 外来患者数（人）</td><td>329.3</td><td>358.9</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>2,695</td><td>2,760</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>1,178</td><td>1,332</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	101,587	101,114	1人1日当たり 外来単価（円）	12,378	12,756	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	205.6 (86.0)	212.1 (88.7)	新規入院患者数（人）	6,429	6,908	平均在院日数（日）	10.7	10.2	1日当たり 外来患者数（人）	329.3	358.9	手術件数（件）	2,695	2,760	救急搬送件数（件）	1,178	1,332				
指標		福岡市立こども病院																															
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値																															
1人1日当たり 入院単価（円）	101,587	101,114																															
1人1日当たり 外来単価（円）	12,378	12,756																															
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	205.6 (86.0)	212.1 (88.7)																															
新規入院患者数（人）	6,429	6,908																															
平均在院日数（日）	10.7	10.2																															
1日当たり 外来患者数（人）	329.3	358.9																															
手術件数（件）	2,695	2,760																															
救急搬送件数（件）	1,178	1,332																															

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (1) 収益確保
中期計画	年度計画
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 (1) 収益確保 ① 診療体制の充実等による医療の高度化に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。 ② 診療報酬改定等の医療情勢の変化に迅速に対応して適切な施設基準の取得を行い、収入の確保に努める。 ③ 診療報酬請求に係るチェック体制を強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努める。	イ 福岡市民病院 ○ 地域医療支援病院としての役割を踏まえ、紹介患者増加に向け、開放型登録医数の拡大を図り、開放型病床・大型医療機器等の共同利用を更に推進するとともに、効率的な病床管理を行い、稼働率向上に努める。 ○ 適切な運動療法や薬物療法等、急性期から回復期及び慢性期まで一貫した医療が提供できるよう、治療開始後早期からのリハビリテーションを更に推進するとともに、心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）を取得し、リハビリ提供体制の更なる充実を図る。 ○ レセプトチェックシステムのカスタマイズを引き続き行い、より精度の高いレセプト請求を行う。また、高額療養費の限度額適用認定証等の事前申請を更に推進し、患者自己負担金の軽減を図ることにより、未収金発生防止に繋げる。 なお、発生した未収金については、電話・文書による督促や個別相談（分納）等により回収を行うとともに、回収困難案件については、法律事務所への業務委託を継続し、確実な回収を図る。

中期目標（内容）	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的な収益の確保に努めること。 また、医療費の未収金発生の防止や確実な回収に努めること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 救急専門医の増員や、肺炎患者・時間外の紹介患者等の受入れに対する院内協力体制について、地域医療連携室を中心に調整を行う等、救急医療体制の更なる充実を図った結果、救急搬送件数が前年度に比べ増加した（28年度2,670件→29年度3,011件）。 これに伴い、新規入院患者数、病床利用率は前年度と比較して大幅に向上し（新規入院患者数：28年度4,438人→29年度4,709人、病床利用率：28年度88.9%→29年度93.0%）、特に消化器内科、循環器内科等の手術件数が大幅に増加した（内視鏡手術件数：28年度563件→29年度855件、循環器内科手術件数：28年度377件→29年度474件）。 全入院手術については前年度と比較して約9,000万円の増収となるなど、入院収益の確保が図られた。 1人1日当たり入院診療単価、新規入院患者数については目標値に達しなかったが、前年度実績値を大幅に上回った。 ○ リハビリテーションについては、スタッフ配置等提供体制の充実を図り、治療後早期からのリハビリテーションを施行する体制を整えたことにより、全ての疾患別リハビリテーションの実施単位数は前年度を上回った。また、科の新設に伴う「初期加算」の算定による増収分を合わせ、前年度と比較し約2,000万円の増収となった。 ○ レセプトチェックシステムのカスタマイズを引き続き行い、より精度の高いレセプト請求を行った。また、高額療養費の限度額適用認定証等の事前申請を更に推進し、患者自己負担金の軽減を図り、未収金発生防止に努めた。 なお、発生した未収金については、電話・文書による督促や個別相談（分納）等により回収を行うとともに、回収困難案件については、法律事務所への業務委託を継続し、確実な回収を図った。	2	3	3	○ 収益の確保に向けた様々な取組の結果、病床利用率や手術件数等の数値目標を達成し、入院収益が確保されたものの、数値目標を設定した8項目の指標うち、入院診療単価や新規入院患者数など半数の項目はやや目標値を下回っている。 ○ リハビリテーション提供体制の更なる充実や未収金発生防止・確実な回収などにより増収が図られた点を総合的に勘案し、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】《再掲》			【目標値】《再掲》		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	64,749	67,000	1人1日当たり 入院単価（円）	64,749	65,600
1人1日当たり 外来単価（円）	22,739	18,200	1人1日当たり 外来単価（円）	22,739	20,200
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	183.7 (90.1)	183.6 (90.0)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	183.7 (90.1)	183.6 (90.0)
新規入院患者数（人）	4,510	4,800	新規入院患者数（人）	4,510	4,750
平均在院日数（日）	12.6	12.5	平均在院日数（日）	12.6	12.5
1日当たり 外来患者数（人）	234.2	250.0	1日当たり 外来患者数（人）	234.2	245.0
手術件数（件）	3,060	3,100	手術件数（件）	3,060	3,100
救急搬送件数（件）	2,620	2,800	救急搬送件数（件）	2,620	2,700

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価																														
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
【実績値】 《再掲》																																	
<table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>62,434</td><td>64,141</td></tr><tr><td>1人1日当たり 外来単価（円）</td><td>22,997</td><td>20,907</td></tr><tr><td>1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））</td><td>181.3 (88.9)</td><td>189.7 (93.0)</td></tr><tr><td>新規入院患者数（人）</td><td>4,438</td><td>4,709</td></tr><tr><td>平均在院日数（日）</td><td>13.0</td><td>12.6</td></tr><tr><td>1日当たり 外来患者数（人）</td><td>229.1</td><td>226.8</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>3,100</td><td>3,534</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>2,670</td><td>3,011</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	62,434	64,141	1人1日当たり 外来単価（円）	22,997	20,907	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	181.3 (88.9)	189.7 (93.0)	新規入院患者数（人）	4,438	4,709	平均在院日数（日）	13.0	12.6	1日当たり 外来患者数（人）	229.1	226.8	手術件数（件）	3,100	3,534	救急搬送件数（件）	2,670	3,011				
指標		福岡市民病院																															
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値																															
1人1日当たり 入院単価（円）	62,434	64,141																															
1人1日当たり 外来単価（円）	22,997	20,907																															
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（％））	181.3 (88.9)	189.7 (93.0)																															
新規入院患者数（人）	4,438	4,709																															
平均在院日数（日）	13.0	12.6																															
1日当たり 外来患者数（人）	229.1	226.8																															
手術件数（件）	3,100	3,534																															
救急搬送件数（件）	2,670	3,011																															

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (2) 費用削減
中期計画	年度計画
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 2 収支改善 (2) 費用削減 ① 診療材料や医薬品等の調達に係る価格交渉の徹底, 契約手法や委託業務の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等を行い, 費用の削減を図る。 ② 両病院とも, 適切に施設・設備のアセットマネジメントを推進する。	○ 診療材料の同種同効品への切り替えや, ジェネリック医薬品の使用拡大により価格低減を図るとともに, 経費全般においても価格交渉の徹底, 契約手法の見直しに努め, 削減を図る。 ○ 委託契約について, 委託内容の見直しに加え, 一括契約や複数年契約など多様な手法を用いる。また, 他施設の状況も参考にしながら更なる費用削減を図る。 ○ こども病院においては, 更なる購入コストの削減を目的に, 管理業務を主体とした委託内容に加え, 預託在庫方式によるSPDへの変更を行う。また, 外部コンサルタントを併せて活用することで, 費用削減を目指す。 ○ 市民病院においては, アセットマネジメント推進の観点による建物の中長期維持管理計画を策定し, 施設・設備の長寿命化や投資の平準化を図るとともに, 省エネ対策の更なる検討・取組を行うことにより, 維持修理に係る費用の削減を図る。

中期目標（内容）	地方独立行政法人の会計制度に基づいた効果的・効率的な事業運営に努めるとともに、効果的な費用の削減に努めること。 また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化などのアセットマネジメントを推進すること。
----------	---

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 診療材料の同種同効品への切り替えや、ジェネリック医薬品の使用拡大により価格低減を図るとともに、経費全般においても価格交渉の徹底、契約手法の見直しに努め、削減を図った。 ○ こども病院においては、委託業務の契約手法や業務内容・仕様内容の見直し、SPDの預託在庫方式への変更を行うとともに、必要な医療機器の選定及び調達に当たり、市場価格を参考とした適正価格・費用対効果の検証や価格交渉の徹底により、さらなる費用の削減を図った。 ○ 市民病院においては、TQM（Total Quality Management）委員会における平成29年度の活動テーマに「費用削減」を掲げ、院内13チームによる医療の質の維持・向上を念頭に置いた費用削減に係る取組を実施した。 また、SPDにより在庫管理のさらなる効率化を図ったほか、契約電力の変更による光熱水費の削減、院内在庫品の活用による被服費の削減、パック旅行の活用による旅費の削減等、費用の削減を図った。 医療機器の保守委託については、フルメンテナンス契約の一部をスポット契約に切り替える等の保守内容の見直しに加え、複数年契約物件の拡大や医師を交えた価格交渉等を行い、さらなる費用削減を図った。 さらに、福岡市のアセットマネジメント推進プランに基づき、施設の長寿命化及び費用の平準化を目的とした中長期維持計画を策定した。また、省エネ対策として病棟ナースステーション照明のLED化を行う等、維持修理に係る費用の削減を図った。	2	3	3	○ 両病院ともジェネリック医薬品の使用拡大による価格低減を図り、ジェネリック医薬品導入率が年度目標を達成するとともに、薬品費対医業収益比率においても年度目標を達成した。 ○ 数値目標を設定した項目のうち、半数はやや目標値を下回っているものの、両病院とも費用の削減に取り組み、一定の成果が出ていることを積極的に評価し、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】 (単位：％)			【目標値】 (単位：％)		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値
給与費対医業収益比率	58.7	60.2	給与費対医業収益比率	58.7	59.1
材料費対医業収益比率	21.1	19.7	材料費対医業収益比率	21.1	19.7
うち薬品費対医業収益比率	8.0	7.4	うち薬品費対医業収益比率	8.0	7.4
うち診療材料費対医業収益比率	12.9	12.0	うち診療材料費対医業収益比率	12.9	11.9
委託費対医業収益比率	9.9	9.7	委託費対医業収益比率	9.9	10.4
ジェネリック医薬品導入率	47.4	80.0	ジェネリック医薬品導入率 ※	47.4	80.0
			※ジェネリック医薬品導入率は品目数の割合で算出しているが、参考として（ ）内に数量による割合を記載している。以下同じ。		
【目標値】 (単位：％)			【目標値】 (単位：％)		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成27年度 実績値	平成29年度 目標値
給与費対医業収益比率	55.6	55.7	給与費対医業収益比率	55.6	56.3
材料費対医業収益比率	30.0	24.2	材料費対医業収益比率	30.0	27.2
うち薬品費対医業収益比率	12.4	8.6	うち薬品費対医業収益比率	12.4	10.1
うち診療材料費対医業収益比率	17.5	15.5	うち診療材料費対医業収益比率	17.5	17.0
委託費対医業収益比率	6.4	7.0	委託費対医業収益比率	6.4	7.3
ジェネリック医薬品導入率	69.3	83.0	ジェネリック医薬品導入率	69.3	82.0

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価																																															
	ウ エ ィ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																																														
【実績値】（単位：％） <table><thead><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr></thead><tbody><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>54.3</td><td>52.6</td></tr><tr><td>材料費対医業収益比率</td><td>19.8</td><td>19.8</td></tr><tr><td> うち薬品費対医業収益比率</td><td>6.8</td><td>7.3</td></tr><tr><td> うち診療材料費対医業収益比率</td><td>12.3</td><td>12.3</td></tr><tr><td>委託費対医業収益比率</td><td>9.2</td><td>9.2</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬品導入率</td><td>81.8</td><td>92.0</td></tr></tbody></table> ※ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。以下同じ。 【実績値】（単位：％） <table><thead><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>平成28年度 実績値</th><th>平成29年度 実績値</th></tr></thead><tbody><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>59.9</td><td>54.9</td></tr><tr><td>材料費対医業収益比率</td><td>29.1</td><td>27.7</td></tr><tr><td> うち薬品費対医業収益比率</td><td>11.8</td><td>9.2</td></tr><tr><td> うち診療材料費対医業収益比率</td><td>17.2</td><td>18.5</td></tr><tr><td>委託費対医業収益比率</td><td>7.0</td><td>7.4</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬品導入率</td><td>87.6</td><td>86.6</td></tr></tbody></table>					指標	福岡市立こども病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	給与費対医業収益比率	54.3	52.6	材料費対医業収益比率	19.8	19.8	うち薬品費対医業収益比率	6.8	7.3	うち診療材料費対医業収益比率	12.3	12.3	委託費対医業収益比率	9.2	9.2	ジェネリック医薬品導入率	81.8	92.0	指標	福岡市民病院		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	給与費対医業収益比率	59.9	54.9	材料費対医業収益比率	29.1	27.7	うち薬品費対医業収益比率	11.8	9.2	うち診療材料費対医業収益比率	17.2	18.5	委託費対医業収益比率	7.0	7.4	ジェネリック医薬品導入率	87.6	86.6
指標	福岡市立こども病院																																																	
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値																																																
給与費対医業収益比率	54.3	52.6																																																
材料費対医業収益比率	19.8	19.8																																																
うち薬品費対医業収益比率	6.8	7.3																																																
うち診療材料費対医業収益比率	12.3	12.3																																																
委託費対医業収益比率	9.2	9.2																																																
ジェネリック医薬品導入率	81.8	92.0																																																
指標	福岡市民病院																																																	
	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値																																																
給与費対医業収益比率	59.9	54.9																																																
材料費対医業収益比率	29.1	27.7																																																
うち薬品費対医業収益比率	11.8	9.2																																																
うち診療材料費対医業収益比率	17.2	18.5																																																
委託費対医業収益比率	7.0	7.4																																																
ジェネリック医薬品導入率	87.6	86.6																																																

中期目標(項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 1 福岡市立こども病院における医療機能の充実
中期計画	年度計画
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置 1 福岡市立こども病院における医療機能の充実 中核的な小児総合医療施設としての役割を果たすため、高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、治験や臨床データ解析等の臨床研究、国際的な視野に立った職員の人材育成等に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展に貢献する。 また、新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用や更なる確保を目指した取組を進める。	○ 尿路・生殖器先天奇形や、先天性腎・尿路異常（CAKUT）治療において、診断から手術、長期的な観察まで包括的・集学的な診療を行う、小児医療専門施設では全国初となる「腎・泌尿器センター」を設置する。 ○ 平成28年度に設置した臨床研究部において、臨床研究や検証的臨床試験に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献する。 ○ 外国人医師等の受け入れについて、円滑な受け入れ環境を整える。 ○ 国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーションの質の向上を図るため、研修活動等の強化を行う。 ○ 高度専門医療を提供するための先進的な医療の開発・研究及びその人材育成や院内療養環境の整備、ふくおかハウスにおける将来的な改修費用等多額の資金を確保するため、企業等へのリーフレット送付やネット上での寄付金募集広告等を活用した募集活動を積極的に行っていく。 ○ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用等に係る取組を進める。

中期目標(内容)	小児医療、周産期医療を取り巻く状況や医療環境の変化等を踏まえ、福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう、中核的な小児総合医療施設としての医療機能の充実を図ること。 また、新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用や更なる確保を目指した取組みを進めること。
----------	---

評価の判断理由(実施状況等)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 先天性の腎・泌尿器疾患への診療体制を強化するため、腎・泌尿器センターを新設した。 ○ 多胎妊娠の周産期管理と先天性心疾患の胎児診断の円滑な受け入れを促進するため、産科に「多胎外来」及び「胎児心エコー外来」を新設した。 ○ 治療開始後又は手術後、早期から急性期リハビリテーションの実施を更に促進するため、リハビリテーション科を新設した。 ○ 厚生労働省DPC公開データにおいて、昨年度に引き続き、川崎病センターにおける症例数(156例→208例)及び先天性心疾患に係る手術症例(82例→108例)について、成人を含む全国のDPC病院の中で全国一位となった。また、脊椎手術症例についても、症例数の増加(160例→205例)とともに、全国二位となる等、順調に成果を挙げた。 ○ 妊産婦メンタルヘルスケアチームを設置し、周産期のメンタルヘルスケアに取り組んだ。 ○ 臨床研究部において、日本医療研究開発機構(AMED)と科研費(文部科学省)で課題が新たに採択される等、臨床研究に積極的に取り組み、共同研究を含め、10件の研究に参加した。 また、治験業務については、専属の治験コーディネーターを採用し、新規プロトコルが10件増加した。 ○ 急性弛緩性脊髄炎に係る調査研究の結果をまとめた論文が米国一流誌(Clinical Infectious Diseases)に掲載されると共に、急性弛緩性麻痺が五類感染症として追加されることになる等、著しい成果を挙げた。 ○ 外国人医師について、施設見学等でタイ人医師1人を受け入れるとともに、日本小児科学会のアジア若手医師育成プログラムへ参加した。 ○ 国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を図るため、研修活動等の強化を行った(16回開催)。 ○ 臨床研究、人材育成や療養環境整備等に関する寄付金の募集について、企業等へのリーフレット送付や営業訪問を行う等、募集活動を積極的に行った。 ○ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、必要性の高い周産期病床の再編成を翌年度に行うための準備を進めた。 ○ 脳死下における臓器提供施設整備に向け、患者・家族から臓器提供の申出あるいは問合せがなされた場合に円滑に対応できる院内の体制を整備するため、対応マニュアルを作成し、机上シミュレーションを実施した。	2	5	5	○ こども病院においては、腎・泌尿器センターの新設をはじめ、当初、計画していた全ての項目について高いレベルで達成した。 ○ 特に、先天性心疾患の手術症例数や川崎病センターにおける症例数が全国一となったほか、急性弛緩性脊髄炎に係る調査研究の結果をまとめた論文が、感染症分野において、信頼性と評価が高く、影響力が大きい米国感染症学会の機関誌(Clinical Infectious Diseases)に掲載され、その後、急性弛緩性麻痺として感染症法に基づく五類感染症全数把握疾患に追加される法改正が行われたことなど、複数の特筆すべき成果を挙げたことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。

中期目標(項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 2 福岡市民病院における経営改善の推進
中期計画	年度計画
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置 2 福岡市民病院における経営改善の推進 ① 高度専門医療，高度救急医療及び感染症医療を提供するなど，市立病院として求められる役割を果たすとともに，経営の効率化に努める。 また，地域医療計画における当院の立場を十分に認識し，地域包括ケアシステムの中で急性期病院が果たすべき役割について必要な取組を行う。 ② 将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら，施設・設備の計画的な維持管理に取り組む。	○ 高度専門医療，高度救急医療及び感染症医療を提供するため，医療資源の効果的な活用を図り，収益の増加と費用の削減による収支改善に努める。 また，地域の医療従事者への研修や，在宅患者の緊急時入院受入による後方支援などの取組を通じて，地域包括ケアシステムにおける地域の基幹病院としての役割を果たす。 ○ アセットマネジメント推進の観点から，建物の中長期維持管理計画を策定するとともに，将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえ，当該計画を適宜見直し，施設・設備の適切な維持管理に取り組む。

中期目標 (内容)	福岡市民病院については、平成27年度に総務省から優良事例として選定されるなど、地方独立行政法人化後の第1期・第2期にわたり、順調にその経営改善が図られたところであるが、引き続き福岡市の厳しい財政状況を踏まえ、経営の効率化に努めること。 また、将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、既存の施設・設備の計画的な維持管理に取り組むこと。
--------------	--

評価の判断理由（実施状況等）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
○ 本院の基本方針に基づき、市立病院として求められる役割を果たすため、高度専門医療、高度救急医療及び感染症医療に必要な医療資源（人的・物的）の投入を的確に行った。これにより診療体制の充実や機能が強化され、更には収益確保に至った。院内感染対策・医療安全対策等においても多職種協働により取り組むなど、患者本位の医療を提供した。 また、職員一丸となって薬品費・材料費等の費用削減にも取り組んだ結果、福岡市からの運営費負担金を前年度に比べて約2億円縮減した計画の中でありながら、経常収支比率の目標値を上回った上で、1億4,700円余の経常利益を確保した。 地域医療支援病院として、かかりつけ医との連携、救急車の受入れ強化、大型医療機器の共同利用等の推進など、地域の医療水準全体の底上げを目標とした諸活動を継続して行った。 また、博多区医師会との連携のもと、在宅医療を担う医療スタッフへの教育講演を実施するなど、地域包括ケアシステムの推進に注力し、同システムにおける地域の基幹病院としての役割を果たした。 ○ 福岡市のアセットマネジメント推進プランに基づき、施設の長寿命化及び費用の平準化を目的とした中長期修繕計画を策定し、施設・設備の適切な維持管理に取り組んだ。	2	4	4	○ 地域包括ケアシステムにおける地域の基幹病院としての役割を果たしつつ、診療体制の充実や機能の強化により収益を確保するとともに、材料費等の費用削減に取り組んだことにより、約1億4,700万円の当期純利益が確保されたほか、アセットマネジメント推進の観点からは、中長期修繕計画を策定し、施設・設備の適切な維持管理に取り組んでいる。 ○ 収支が改善された点を積極的に評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（平成 29 年度）

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
収 入			
営 業 収 益	15,482	16,292	810
医 業 収 益	13,971	14,786	815
運 営 費 負 担 金 収 益	1,337	1,337	△ 0
補 助 金 等 収 益	107	105	△ 3
寄 附 金 収 益	10	0	△ 10
受 託 収 入	56	64	7
営 業 外 収 益	246	233	△ 13
運 営 費 負 担 金 収 益	106	106	—
補 助 金 等 収 益	0	0	—
そ の 他 営 業 外 収 益	139	126	△ 13
資 本 収 入	588	557	△ 31
長 期 借 入 金	—	—	—
運 営 費 負 担 金	557	557	0
補 助 金 等	31	—	△ 31
そ の 他 収 入	—	—	—
計	16,315	17,082	767
支 出			
営 業 費 用	14,174	13,927	△ 246
医 業 費 用	13,985	13,732	△ 254
給 与 費	8,213	7,903	△ 310
材 料 費	3,428	3,549	121
経 費	2,242	2,205	△ 38
資 産 減 耗 費	—	—	—
研 究 研 修 費	102	75	△ 27
一 般 管 理 費	188	196	7
給 与 費	134	149	15
経 費	54	46	△ 8
営 業 外 費 用	231	224	△ 7
資 本 支 出	2,632	2,494	△ 137
建 設 改 良 費	644	507	△ 137
償 還 金	1,987	1,987	△ 0
そ の 他 の 支 出	0	—	△ 0
計	17,036	16,646	△ 391

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているのので、端数において合計とは一致しないものがある。

2 収支計画（平成 29 年度）

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
収 益 の 部	16,274	17,035	761
営 業 収 益	16,028	16,811	782
医 業 収 益	13,971	14,771	800
運 営 費 負 担 金 収 益	1,337	1,337	△ 0
補 助 金 等 収 益	107	105	△ 3
寄 附 金 収 益	10	0	△ 10
資 産 見 返 負 債 戻 入	547	539	△ 8
受 託 収 入	56	59	2
営 業 外 収 益	246	224	△ 21
運 営 費 負 担 金 収 益	106	106	0
そ の 他 営 業 外 収 益	139	118	△ 21
臨 時 利 益	—	—	—
費 用 の 部	16,104	15,962	△ 142
営 業 費 用	15,875	15,737	△ 138
医 業 費 用	15,499	14,955	△ 544
給 与 費	8,091	7,838	△ 253
材 料 費	3,428	3,378	△ 50
経 費	2,247	2,056	△ 191
減 価 償 却 費	1,630	1,612	△ 18
資 産 減 耗 費	1	1	0
研 究 研 修 費	102	71	△ 31
一 般 管 理 費	190	172	△ 18
そ の 他 営 業 費 用	185	610	425
営 業 外 費 用	229	224	△ 4
臨 時 損 失	0	—	△ 0
純 利 益	170	1,073	903
目的積立金取崩額	—	—	—
総 利 益	170	1,073	903

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがある。

3 資金計画（平成 29 年度）

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
資 金 収 入	20,524	21,353	828
業 務 活 動 に よ る 収 入	15,727	16,408	681
診 療 業 務 に よ る 収 入	13,971	14,627	656
運 営 費 負 担 金 に よ る 収 入	1,443	1,443	△ 0
そ の 他 の 業 務 活 動 に よ る 収 入	313	339	26
投 資 活 動 に よ る 収 入	588	1,782	1,194
運 営 費 負 担 金 に よ る 収 入	557	557	0
そ の 他 の 投 資 活 動 に よ る 収 入	31	1,225	1,194
財 務 活 動 に よ る 収 入	—	—	—
長 期 借 入 れ に よ る 収 入	—	—	—
そ の 他 の 財 務 活 動 に よ る 収 入	—	—	—
前 事 業 年 度 か ら の 繰 越 金	4,209	3,162	△ 1,047
資 金 支 出	20,524	21,353	828
業 務 活 動 に よ る 支 出	15,427	15,267	△ 159
給 与 費 支 出	8,347	7,999	△ 348
材 料 費 支 出	3,428	3,124	△ 304
そ の 他 の 業 務 活 動 に よ る 支 出	3,651	4,144	493
投 資 活 動 に よ る 支 出	542	1,660	1,118
有 形 固 定 資 産 取 得 に よ る 支 出	542	430	△ 112
無 形 固 定 資 産 取 得 に よ る 支 出	—	4	4
そ の 他 の 投 資 活 動 に よ る 支 出	—	1,225	1,225
財 務 活 動 に よ る 支 出	2,089	2,089	△ 0
長 期 借 入 金 の 返 済 に よ る 支 出	1,294	1,294	△ 0
移 行 前 地 方 債 償 還 債 務 の 償 還 に よ る 支 出	693	693	△ 0
そ の 他 の 財 務 活 動 に よ る 支 出	102	102	△ 0
翌 事 業 年 度 へ の 繰 越 金	2,466	2,336	△ 129

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

第6 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実 績
1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等，偶発的な出費への対応	1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等，偶発的な出費への対応	該当なし

第7 重要な財産を譲渡し，又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実 績
重要な財産を譲渡する計画 土地（福岡市中央区唐人町二丁目133番2 面積16,925.85平方メートル）を譲渡する。	なし	該当なし

第8 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実 績
決算において剰余を生じた場合は，病院施設の整備，医療機器の購入，教育・研修体制の充実等に充てる。	決算において剰余を生じた場合は，病院施設の整備，医療機器の購入，教育・研修体制の充実等に充てる。	平成29年度は，決算において剰余を生じたので，平成30年度以降における病院施設の整備，医療機器の購入，教育・研修体制の充実等に充てる予定である。

第 9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実 績																		
1 施設及び設備に関する計画 (平成29年度から平成32年度まで) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設, 医療 機器等整備</td><td>4,573</td><td>福岡市長期借 入金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設, 医療 機器等整備	4,573	福岡市長期借 入金等	1 施設及び設備に関する計画 (平成29年度) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設, 医療 機器等整備</td><td>644</td><td>前中期目標期間 繰越積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設, 医療 機器等整備	644	前中期目標期間 繰越積立金等	1 施設及び設備に関する計画 (平成29年度) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>決定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設, 医療 機器等整備</td><td>405</td><td>前中期目標期間 繰越積立金</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	決定額	財源	病院施設, 医療 機器等整備	405	前中期目標期間 繰越積立金
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設, 医療 機器等整備	4,573	福岡市長期借 入金等																		
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設, 医療 機器等整備	644	前中期目標期間 繰越積立金等																		
施設及び設備 の内容	決定額	財源																		
病院施設, 医療 機器等整備	405	前中期目標期間 繰越積立金																		
2 人事に関する計画 人事評価の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 人事評価の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 医師以外の管理職を対象とする管理職目標管理制度について、将来的には職員の業績や貢献度等を給与に反映できるよう、制度の検討に引き続き取り組んだ。 また、運営本部においてマネジメント能力向上を目的に、係長級昇任者を対象とした監督者研修を実施したほか、各病院においても外部講師の活用による院内研修の実施や外部研修の受講を推進するなど研修体制の充実に努めた。 人材育成や組織の活性化を図るため、適材適所の人事配置に努めたほか、有期職員をこども病院に127人、福岡市民病院に115人及び運営本部に2人配置するなど、効果的・効率的な組織運営を推進した。 ※有期職員の人数は平成29年5月1日現在																		

地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第２８条第１項各号の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が実施する地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の業務実績に関する評価（以下「評価」という。）については、以下の方針に基づき行うものとする。

１ 基本方針

- (1) 評価は、法人が中期目標を達成するために、業務運営の改善及び効率化が進められること及び法人の質的向上に資することを目的として行うものとする。
- (2) 評価は、年度計画及び中期計画の実施状況を確認及び分析し、法人の業務運営等について総合的に判断して行うものとする。
- (3) 年度計画及び中期計画を実現するために、法人として特色ある取組や様々な工夫を行った場合は積極的に評価することとし、単に実績数値にとらわれないものとする。
- (4) 評価方法については、法人を取り巻く環境変化などを踏まえ、柔軟に対応するとともに、必要に応じて見直しを行うものとする。

２ 評価方法

(1) 法人からの報告書の提出

法人は、各事業年度の終了後３月以内に、法第２８条第２項及び地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則第８条に定める報告書（以下「業務実績報告書」という。）を市長に提出するものとする。

(2) 評価の実施

市長は、提出された業務実績報告書をもとに、法人からの意見聴取等を踏まえて業務の実施状況を確認及び分析し、別途、実施要領で定める項目を評価単位とする「項目別評価」と、それを踏まえた「全体評価」により評価を行うものとする。

評価は、毎事業年度の終了後に実施する「年度評価」、中期目標の期間の最後の事業年度の直前の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間見込評価」及び中期目標の期間の最後の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間評価」とする。

① 年度評価

当該事業年度における業務の実績について「項目別評価（小項目評価及び大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

② 中期目標期間見込評価

中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

③ 中期目標期間評価

中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

3 評価結果等の活用

- (1) 法人は、法第28条第6項に基づく業務運営の改善等の措置を受けた場合、自主的に必要な措置をとるとともに、法第29条に基づき、評価の結果を、中期計画及び年度計画並びに業務運営の改善に適切に反映させる。
- (2) 次期中期目標の策定、次期中期計画の認可及び法人の業務の継続又は組織の存続の必要性等に関する検討に関して、評価委員会が意見を述べる際には、中期目標の期間の各事業年度の評価結果を踏まえるものとする。

4 適用時期

この方針は、平成30年度に実施する業務実績評価から適用する。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の各事業年度における業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を実施するにあたっては、「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針（平成30年6月22日決定）」に基づき、以下の要領により実施する。

1 評価区分

(1) 全体評価

当該事業年度における業務の実績全体について評価を行う。

(2) 項目別評価

① 大項目評価

法第25条第2項第2号から第5号の各号に基づき、中期目標に掲げる第1から第4の事項について評価を行う。

② 小項目評価

大項目評価で定める評価区分に基づき、別表で定める事項について評価を行う。

2 評価結果の公表

評価の結果は、評価区分ごとに評価結果報告書（別紙1のとおり）にとりまとめ公表する。

3 評価方法

(1) 法人の自己評価

法人は、中期計画及び年度計画の実施状況等が明らかになるよう、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由等を記載した業務実績報告書（別紙2のとおり）を作成する。法人は、各小項目に市立病院としての役割や年度計画の重要度合いを考慮して、ウェイトを設定するものとする。

なお、業務の実績には、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、特記事項として、特色ある取組、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院の自己点検に基づき、法人として行うものとする。

評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価４・・・年度計画を上回って実施している。

評価３・・・年度計画を順調に実施している。

評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 項目別評価

① 小項目評価

市長は、業務実績報告書記載の法人の自己評価を踏まえ、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。その際、単に目標値及び前年度数値と当該年度の実績値の比較だけでなく、中期計画を達成するために効果的な取組が行われているかどうかなど、総合的に判断するとともに評価の判断理由等を記載する。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価４・・・年度計画を上回って実施している。

評価３・・・年度計画を順調に実施している。

評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

② 大項目評価

市長は、小項目評価の結果を踏まえ、大項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。評価に当たっては、小項目評価の１～５をそれぞれ１点～５点とし、ウェイト換算後の合計を評価点、すべての小項目評価が３の場合の合計を標準点とし、標準点に対する評価点の割合（％）により評価を行うものとする。

また、特筆すべき小項目評価やその他考慮すべき事項がある場合、判断理由を記載する。

評価Ｓ：中期計画の実現に向けて、特筆すべき進捗状況にある。

（市長が特に認める場合）

評価Ａ：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる。

（評価点が標準点の１２０％以上）

評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる。

(評価点が標準点の100%以上120%未満)

評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている。

(評価点が標準点の100%未満)

評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある。

(市長が特に認める場合)

(3) 全体評価

市長は、項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について、記述式による評価を行う。

全体評価においては、病院改革の取組(法人運営における業務運営の改善・効率化、財務内容の改善など)を積極的に評価するものとする。

その評価にあたり、項目別評価の結果及びその判断理由とともに、主な取組や特色ある取組及び特に優れている点など特筆すべき取組について記載するものとする。

また、評価に際し改善すべき事項がある場合は記載する。

4 適用時期

この要領は、平成30年度に実施する業務実績評価から適用する。

(別表) 項目別評価

大項目	小項目	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践
		(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
		(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応
	2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上
		(2) 情報発信
	3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの確保と教育・研修
		(2) 信頼される医療の実践
第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	
	2 事務部門の機能強化	
	3 働きがいのある職場環境づくり	
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保	
第3 財務内容の改善に関する事項	1 経営基盤の強化	(1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減
		(2) 投資財源の確保
	2 収支改善	(1) 収益確保
		(2) 費用削減
第4 その他業務運営に関する重要事項	1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	
	2 福岡市民病院における経営改善の推進	